

令和2年 第7回

南会津町議会全員協議会 会議録

南会津町議会

令和2年第7回南会津町議会全員協議会会議録目次

10月23日（金）

◎議事日程	1
◎出席議員	1
◎欠席議員	1
◎説明のための出席者	1
◎事務局職員出席者	1
◎開会の宣告	3
◎議長挨拶	3
◎議題	3
県立南会津高等学校、田島高等学校統合について	3
◎閉会の宣告	50

令和2年第7回南会津町議会全員協議会

議事日程

令和2年10月23日（金曜日）午後 1時30分開会

- 1 開会
- 2 議長挨拶
- 3 議題
(1) 県立南会津高等学校、田島高等学校統合について
- 4 閉会

出席議員（15名）

1番	五十嵐 芳 道	議員	2番	馬 場 浩	議員
3番	川 島 進	議員	5番	室 井 英 雄	議員
6番	渡 部 訓 正	議員	7番	丸 山 陽 子	議員
8番	湯 田 良 一	議員	9番	大 桃 英 樹	議員
10番	湯 田 哲	議員	11番	高 野 精 一	議員
12番	山 内 政	議員	13番	菅 家 幸 弘	議員
14番	星 光 久	議員	15番	楠 正 次	議員
16番	室 井 嘉 吉	議員			

欠席議員（1名）

4番 湯 田 芳 博 議員

説明のための出席者

白 石 孝 之	県立高校改革監	小 林 寿 宣	県立高校改革室 長
中 野 正 人	県立高校改革室 主任管理主事	田 中 巨 文	県立高校改革室 管理主事

事務局職員出席者

鈴木雄蔵 事務局長 星 貴夫 事務局長補佐

開会 午後 1時30分

◎開会の宣告

○室井嘉吉議長 それでは、どうも皆さん、こんにちは。

都合により欠席届のあった議員は、4番、湯田芳博君であります。

ただいまから全員協議会を開会いたします。

執務中の軽装化の実施に伴い、上衣の脱衣を許します。



◎議長挨拶

○室井嘉吉議長 本日の全員協議会は、議長が招集をしたものであります。お忙しい中、お集りをいただきまして誠にありがとうございます。

また、県教育委員会の皆様もご要請に応じていただき、感謝を申し上げます。遠いところ大変ご苦労さまでございます。

県立高校統合問題は、当町にとって、教育はもとより、地域全体に及ぼす影響は他方面にわたるものがあり、極めて重要な問題であります。

県立高等学校改革前期計画については、平成31年2月にも説明をいただいておりますが、南会津郡全体にも関わる重要な案件でもありますので、再度県教育委員会に説明を依頼したものであります。

本日の会議の次第はお手元に配付のとおりでございます。



◎議題

○室井嘉吉議長 県立南会津高等学校、田島高等学校統合についてを議題といたします。

本日の全員協議会の進め方ですが、前段、文教厚生委員会から県教育委員会に対し質問の提起、説明を行い、回答をいただき、後段で各議員からの質問、ご意見等を受けたいと思いますので、ご了承ください。

初めに、文教厚生委員長の発言を許します。

文教厚生委員長。

○9番 大桃英樹議員 皆様お疲れさまでございます。

本日、県立田島高校、南会津高校統合に関する説明会を開催するに当たり、まず、県教育委員会高校改革室、白石改革監様をはじめ、皆様には大変お忙しい中、また、遠路はるばる当町にお越しいただくとともに、この説明会に際し、ご準備いただきましたことに心から感謝申し上げます。

議長からもあったように、県立高等学校の統合については、県教育委員会において、福島県学校教育審議会の答申を受け、今後、10年間の県立高等学校改革の方向性を示す県立高等学校改革基本計画を2019年2月に策定し、前期5年、後期5年の計画の元、前期計画において、田島、南会津高等学校の統合を2023年に計画しているものでございます。

この計画について、県教育委員会では県立高等学校改革懇談会、住民説明会等を開催し、住民に対し理解を求めてまいりました。しかし、それら説明会等では、南会津高校がある南郷地域をはじめ、南会津町西部地区の住民から強い反対の声が上げられてきました。

また、町で行ったアンケートにおいても、結果は同様でございました。説明会を何度繰り返しても、同じ反対の声や通学に対する不安の声が聞かれ、県教育委員会からは住民が求める説明の言葉がないこと、そして来年受験を控える生徒や保護者、中学校関係者からも不安の声があることをかんがみ、私たち文教厚生委員会では、今回、昨年2月以来、2回目の議会の説明会を計画いたしました。

今日は、事前に県教育委員会に対し具体的な質問をお送りしておりますので、その内容について説明いたします。

まず1つ目には、西部地区から統合校への通学の困難さの評価についてです。

最も遠い生徒は、距離にして50キロ以上、時間は1時間以上を要することになります。安全性の確保、保護者の不安が大きいことはこれまでも声が上がっておりますが、県教育委員会の考え方は。

2点目には、地域振興に対する影響についてです。

南郷地域を中心に、西部地区にはたくさんの方が新規就農でこの地を生きる地として選択し、トマト生産を行い、子供たちを育て生活されています。高校がなくなってしまうことは、新規就農者や移住・定住者の減少、地域経済への悪影響と地域振興に大きなダメージを受ける可能性があると考えますが、地域振興と学校の在り方についてどのように考えるか伺います。

また、その審議の過程、これについてもお示ししたいと思っております。

3点目は、地域協働推進校との違いについてです。

計画では、県内6校を地域協働推進校に指定し、地域との協働による教育内容の充実により、生徒の進路希望の実現を図り、地域創生の核となり、社会に貢献できる人づくりを担うとしていきます。

しかし、皆さんご存じのとおり、南会津高校は既に地域との協働による学校づくりを実践し、地域に愛される学校であり、地域を担う人材づくりにも寄与しております。なぜこの6校と同様に地域協働推進校とならないのか、改めて伺います。

そして、最後に、今後の進め方についてです。

もう既に時は10月、説明会等では来春受験する子供たちに対し、3年生になったときには統合校となるというような説明をされております。行政上の手続であるとか、住民への説明であるとか、今後、県教育委員会として計画を進める上で予定されていること、それらについて伺います。

質問は以上となります。

県教育委員会の皆様、ご回答よろしく願いいたします。

なお、この後、県教育委員会様から回答をいただいた後、詳細の質問を今述べた項目ごとに文教厚生委員会の委員で再質問させていただきます。

議員の皆様におかれましては、その質疑が終わりました後、質問いただきますようよろしくお願い申し上げます。

以上です。

○室井嘉吉議長 それでは、県教育委員会からご回答をお願い申し上げます。

○白石孝之県立高校改革監 県立高校改革監の白石孝之と申します。どうぞよろしくお願いをいたします。

今ほど文教厚生委員長様のほうから、4つほどご質問をいただいたと説明がありました。

1つは、西部地区から統合校への通学の困難さの評価ということ、それから2つ目は、地域振興に対する影響について、3つ目としまして、地域協働推進校との違いについて、最後に、今後の進め方ということでご質問いただきましたので、まずはその順に沿ってご説明をさせていただきますと思います。

1つ目の通学の関係でございます。

通学につきましては、我々も1時間近い通学時間ということで把握をしております。ただ、そういう中で路線バスというもの、時間はかかりますが、路線バスを利用するというものであ

れば、ご不便はかけるかと思いますが、通学はできるのかということで考えております。

ただ、一方、今ほどご説明がありましたとおり、県で実施しております県立高等学校の改革の懇談会、それから住民説明会におきまして、バスを利用しての通学は困難であるという声、さらにはバスで通学できたとしても、学習時間や部活動の時間が取れないというような声をいただいております。こうした声を踏まえまして、現在、県教委のほうで様々な観点から対応を検討しているところでございます。

それから、2つ目の地域振興につきましてでございます。

県教育委員会といたしましては、生徒の学びの環境整備というものを、これを最優先に考えておりまして、そういった生徒の学びの環境が長期的に、そして安定して提供していくということが、我々県教育委員会の使命であるというふうに考えてございます。

ただ、現状、両校とも1学級規模に近い状況となっております。また、ここ数年の状況を見ますと、南会津町内の中学生の約半数近くにつきましては、町外の高校に進学をされているという状況もございます。また、隣接します下郷町からも、田島高校への進学者というのも減少をたどっているというような状況が続いております。このまま生徒の入学者数の減少を進めば、高校生の学びの環境というのがさらに低下をしていくというふうに考えております。

こうした中で、統合することによりまして、一定の規模を持った魅力的な学校を造りまして、地域の団体等と連携をしまして、教育活動をより充実をさせ、人材育成を図ってまいりたいというふうに考えてございます。

また、お手元の資料に、資料5ですかね、資料5をご覧をいただきたいと思います。

統合校につきましては、総合学科というような種別の新たな学校を予定をしております、4つの学びの系列の柱になるものを設けまして、実施をしていきたいというふうに考えておりまして、その中でも特にアグリ環境探求という系列を設けまして、地域に根差した、地域の農業を支える人材の育成というものも図ってまいりたいというふうに考えております。

加えて、こうした学校の学習、学びなんです、教科の学びというものの以外の地域と連携しながら地域のよさを学び、課題を考察するなど、地域とともに子供たちを育てていくというような視点も非常に大きな視点であると考えておりまして、ここ南会津町を学びのフィールドとした探求的な学習、そして地域圏における職場体験、インターンシップ等々を実践しながら、この地域で活躍する人材育成に取り組むことで、地域振興につながっていくものというふうに考えてございます。

それから、3つ目でございます。

地域協働推進校との違いということでございます。地域協働推進校、いわゆる1学級での本校化ということで、1学級でも存続をするという学校でございます。

今回、策定しました県立高等学校の前期実施計画におきましては、過疎中山間地域の高等学校において、地理的条件、そして公共交通機関の状況によりまして、統合により近隣の高校への通学が極端に困難になる場合、または、あるいは地元からの入学者の割合が著しく高い場合など、特別な事情があると考えられる場合につきましては、例外的に1学級でも本校化として存続をしていくというふうにしてございます。

南会津高校につきましては、先ほど申し上げましたとおり、若干多くの時間がかかることとなりますが、路線バスを活用していただければ、田島高校も少しでも通学できるというふうを考えております。

また、地元である南会津中学校、そして館岩中学生の入学者の割合につきましては、また資料ちょっと前後して申し訳ございませんが、割合としてはちょっと記載はしておりませんが、資料2をご覧いただきますと、各中学校の進学先が出てございます。こうした状況を見ますと、地元である南会津中学校、それから館岩中からの南会津高校への入学者の割合、そういうのは約半数程度というふうになっておりますので、我々としましては、地元からの入学生の割合が著しくとは言えないと判断し、統合という計画をお示しをさせていただきました。

さらに、資料3、資料4をご覧いただきたいと思うんですが、両校とも直近10年間につきましては、定員割れの状況が続いているというところでございます。直近でいきますと、田島高校では令和2年43名、南会津高校では令和2年度42名ということで、実質1学級に近いような状況でございます。

仮にこのまま両校本校化、1学級として本校化として継続したとしましても、資料4にも記載しておりますが、今後の中学校の卒業見込み者数、それから入学者数の予測から、我々としましては、1学級の規模が非常に厳しくなるというふうに見込んでいるところであります。

そういう状況ですので、今であれば2校を統合しまして、3学級規模の総合的な魅力ある学校を造ることで、地元の子供さんの入学はもちろん、お隣の下郷町、ひいては、さらには会津若松市内からも入学してもらおうようにすることができるというふうを考えております。

最後に、今後の進め方についてであります。

先ほど申し上げましたように、様々な地域の声をいただいております、それをもとに県としての対応、今検討しているところでございます。今後、予定をしております第3回目の懇談会ですね、そういったもの、さらには今までいただいていたものに対する考え方、それからさ

らに検討してきた内容についてお示ししまして、議員の皆様方、懇談会の委員の皆様方のご理解をいただきたいというふうに考えてございます。

また、それを踏まえながら、そういった3回目の懇談会でのご意見等も踏まえながら、教育内容の魅力化についても検討を進めてまいりますし、その後、改めて地元の中学生、さらには保護者に対しまして説明会を開催してまいりたいというふうに考えております。

冒頭の質問に対しましてご説明につきましては、以上のとおりでございます。

よろしく願いいたします。

○室井嘉吉議長 1番、五十嵐芳道君。

○1番 五十嵐芳道議員 議員番号1番、五十嵐芳道といたします。

それでは、再質問という形でさせていただきます。

通学時間、1時間近いとおっしゃられました、実際には山口から、事前の前の懇談会などで山口から1時間以内ということで、それ以外の場所については考えられていない回答だったと思いますが、その点について、ちょっと例えば和泉田、それから大桃地区、遠いところあるんですが、その辺についてはどうのお考えでしょうか。

○室井嘉吉議長 どうぞ、県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 改革室長の小林と申します。どうぞよろしく願いいたします。

山口停留所から田島までですね、約1時間弱だと思いますけれども、それ以外の地域のこの部分もあるのではないかとということでございました。

今現在、町のご協力も得まして、南会津高等学校に通っている生徒たちは、田島駅から南会津高校の前までバスをらせていただいているという状況でございます。ただ、下郷町の方とか、下郷もその奥の方がいらっしゃる、東部地区の方も奥の方が駅、必ずしも最寄りということではなくて、遠くから駅まで送り迎え等していただいているという状況はあるのであろうと思っております。

西部地区において、山口が一番近いというところがございますけれども、南の内川の方面ですとか、北の方面、また奥もあるということでございますので、そちらにつきましては、お手数をかけることとなりますけれども、車等で送っていただく等ご協力いただいて、通学は可能なのではないかというふうに考えております。

○室井嘉吉議長 五十嵐議員、ちょっとお待ちください。

ここで申し上げますが、これからは議会基本条例第10条の規定によって、質疑応答は一問一答方式で行うものとし、会議規則第55条ただし書の規定によって質疑の回数が3回を超え

ることを許し、同規則第56条第1項の規定によって、その発言時間は答弁を含めおおむね30分に制限しますので、簡潔明瞭に質疑されるようよろしくお願いします。

こういうことですので、大変失礼しました。

引き続き質問してください。

○室井嘉吉議長 1番、五十嵐芳道君。

○1番 五十嵐芳道議員 答弁の中で、現在、田島駅から南会津高校にバスが行っていて、田島地区の子供たちは南会津高校に通っている。なので、反対もできるのかという趣旨の回答だったと思いますけれども、現在、例えば南郷小学校だったりすると、県道と国道側、それから伊南のほうもあったりして、2本くらいのバスが出ているんです。その辺は町でバスを出しているんですけども、町の協議は進められているのでしょうか。バスがあるじゃないかというのは、前提というのは担保されているのかということなんです。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 今の町のスクールバスとの関係の調整につきましては、これから正式にお願いしてまいりたいというふうに考えております。

○室井嘉吉議長 1番、五十嵐芳道君。

○1番 五十嵐芳道議員 町とまだ何にも話はできてないということですのでよろしいと思います。

その上で、中学生に、今の3年生に田島高校に入学という提案をするというのは、ちょっと無理があると思うんですが、これは何回も今までの協議会なり懇談会で言われていると思うんですけども、ちょっとそこは無理があって、子供たちが選べないという。志望する人が選べないので、前回の調査もあつたんですけども、減っているというのは、そこも一因があると思っています。

あと現在、南会津高校には寮があるんですが、今のところ18名が入寮して通っているところなんです。これは、冬期間は10名ほど増えると。これは今バイクで通っている人たちが、子供たちが入寮して、冬期はバイクで通えないので増えるということはあるんですが、寮に関しては、田島高校は、新生田島高校ですが、どんなふうに考えておられるでしょうか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 まず1つ、中山間の方々が今の段階で進学先を選定するのは、困難だということにつきましては、まさにそのとおりだと思っています。我々としましても、様々な声をいただいております。今、寮の話もございました。そういったことも、何ができるかというものも今鋭意検討しているところでございます。今後、中学3年生が選択するぎりぎ

りの時期にはなっていると思いますが、そこに間に合うように対応策を検討し、ご説明したいというふうに考えてございます。

○室井嘉吉議長 1番、五十嵐芳道君。

○1番 五十嵐芳道議員 先ほどのまとめた答弁の中での対応を様々な方面から検討という言葉が出たんですけども、ちゃんと具体的には、様々な対応ってどんなことを考えられているのでしょうか。様々っていろいろあると思うんですけども、その辺はどうでしょうか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 まさに様々な、いろいろ寮の問題もあるでしょうし、交通の問題もあるでしょうし、いろいろな検討課題はあるかと思いますが、まだ検討して、県教育委員会としまして、内部調整といいますか、決定まで至っていないものですから、その内容につきましても、検討中ということでご勘弁願いたいと思います。

○室井嘉吉議長 1番、五十嵐芳道君。

○1番 五十嵐芳道議員 検討中の中で、子供たちに学校を選べ、選べと先生方も非常に困っておられるということで、子供たちにどうしたらいいかという回答というのは、期限はつけられるものでしょうか。いつ頃になったら、志望校を出す直前なのか、それとももっと前なのか、いつになったらはっきりした県は回答を示せるのかということをお聞きします。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 検討中、検討中という回答で申し訳ないんですが、それにつきましては、可能な限り我々として今、五十嵐議員からおたしありましたとおり、中学3年生の進路選択というのが目の前だというふうにいただいていますので、我々としては、庁内調査をしっかりとしまして、早い段階で示せるように進めてまいりたいというふうに考えております。

○室井嘉吉議長 1番、五十嵐芳道君。

○1番 五十嵐芳道議員 具体的に何月何日という回答が得られないのがちょっと残念なんですけれども、ここでまた聞いてもあれなので。

では、下宿、寮がはっきりしない。それから通学方法もはっきりしないということで、では、民間の下宿はどうなのかという、保護者としてはそういう考えもあると思うんですけども、下宿の営業、例えば田島町内の下宿はどのぐらいあるのかなんて調査はされていますでしょうか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 回答させていただきます。

これまでいろいろな様々な方向性を検討するに当たりまして、民間の寮、あるいはいわゆる民宿、旅館等の活用も含めて様々検討しているというところでございます。

○室井嘉吉議長 1番、五十嵐芳道君。

○1番 五十嵐芳道議員 そちらも検討ということで、検討がいっぱいあって、子供たちも検討する題材がないので、今下宿という話を出したんですけれども、下宿するとなれば、ここで下宿代を払うのも、会津若松市で下宿代を払うのもほぼ同じ。距離はちょっと近いけれども、それは下宿なのであまり公表しなくていいと思うので、なので、会津若松市に行くという保護者は、ただ、それにもお金がかかりますけれども、お金の話をするとあれですけれども、補助とか、そういう考えというのは、例えば下宿する、補助なんていう考えはございますでしょうか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 今回の計画どおり、南会津高校と田島高校を統合しまして、田島高校に統合校を設けるとした場合に、西部地区からにつきましては、当然交通費の負担もございます。それから場合によっては寮とか下宿といった場合については、それぞれの負担も我々も承知していますので、そういった方々に対しては、支援制度を設けるということで考えております。

○室井嘉吉議長 1番、五十嵐芳道君。

○1番 五十嵐芳道議員 支援制度を設けるとおっしゃりましたので、今、南会津高校の生徒、今まで入っていた生徒の範囲というのは、只見と舘岩、舘岩の子供たちというのは、田島高校に通っている現状があります。支援は、例えば今まで舘岩の子供たちは支援を受けない下宿なりしていたわけです。それに関しても、補助というか、支援をするという考え方でよろしいでしょうか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 まさに今までの方々の負担というのもございますので、そこのある意味バランス、均衡というのも考えていかなければならないというふうに思っておりますので、そこら辺については、現状もいろいろ確認をしながら検討してまいりたいというふうに思っています。

○室井嘉吉議長 1番、五十嵐芳道君。

○1番 五十嵐芳道議員 それをやれば学校統合ということではないんですけれども、確認の意味で県の考えを伺いました。

私からの質問は以上で終わります。

○室井嘉吉議長 次、質問ございませんか。

5番、室井英雄君。

○5番 室井英雄議員 私のほうからは、地域協働推進校の違いについて再質問させていただきます。

先ほど白石改革監のご答弁の中では、路線バスを利用すればよいと、そういう回答。また、入学者が著しく高くないというご回答だったんですが、昨年、西部地区の小・中学校の生徒に対してアンケートを取ったその数字というのは、白石さんはお持ちでしょうか。そこからちょっとお聞きしたいんですが。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 アンケートというのは、振興協議会のほうで取ったアンケートということでしょうか。

○5番 室井英雄議員 振興協議会。

○白石孝之県立高校改革監 振興協議会のほうで取られたアンケートについてはいただいておりますので、私も拝見してございます。

○室井嘉吉議長 5番、室井英雄君。

○5番 室井英雄議員 その中の数字なんですが、約72.5%の生徒が反対と、統合には反対と。このまま南会津高校が残れば、74%の生徒が南会津高校に行くとアンケートで答えておられます。今までの進学状況見ますと、著しく高いとかという数字ではないかもしれませんが、こういう結果に関してはどう白石さんは、改革監はどう思われますか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 アンケート結果、確かにそのような数字拝見をしております。非常にその子供たちの選択、今の希望というのが非常にそういう数字が出ているということについては重く受け止めております。

ただ一方、先ほどから検討中、検討中というふうなお話をさせていただいて大変恐縮なんですが、交通手段とか、例えば場合によっては寮とか、そういった進学を選択するに当たってのそういった条件を我々として示せていないということが、大きな課題ということは認識をして、ことだろうというふうに認識してございますので、改めてそういったしっかりした対応につきましては、早めに検討しまして、地域の方々にご説明してまいりたいというふうに考えております。

○室井嘉吉議長 5番、室井英雄君。

○5番 室井英雄議員 早めの回答と言いますが、10月がもうすぐ終わります。本当に今の中学3年生、ましてや今度2年生も含めてでしょうが、今の中学生全員に関わってくる問題なので、一刻も早くよりよいご回答をいただきたいと心より願うばかりでございます。

そういう状況で、改めまして、基本計画ですね、改革の基本計画、その基本方針4、先ほど改革監も詳しく述べられましたが、もう一度私のほうから質問させていただきます。

統合によって近隣の高校への進学が極端に問題になり、当該地域の生徒の教育機会が著しく損なわれる、これは間違いなくそうですよね。その場合や地元からの入学者の割合が著しく高い場合は、特例措置として1学年1学級ということで、県内6校、今指定されております。

前段で質問したことを踏まえて、ほかの6校との明確な違いというのはどこにあるのか、もう一度お聞きします。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 条件大きく2つ、そこを含めてトータルで考えて、この後どうかというのを我々としても判断をしているつもりであります。例示してあります1つの通学につきましては、確かに先ほど来ご指摘をいただいているとおり、長時間だというお話をいただいていますので、その分については、我々としても通常一般的な通学からすれば、時間は多くかかるだろうというふうには認識をしておりますが、かといって、では、絶対通えないかというところからしますと、極端というほどまでは言えないだろうというのが我々の1つの考え方でございます。

それから、地元からの入学者の割合というところでございます。この地元という言葉でございしますが、一般的な言葉でいきますと、南会津町の方からすれば、地元というのは当然こちらの田島地区、それから伊南、南郷も含めて全部地元という言葉だと思えます。

ただ、我々がこの高校改革で使っています地元というのは、そういった一般的な地元という概念とはちょっと違う使い方をさせていただいています。

具体的に申し上げますと、例えば田島高校の地元ってどこだというようなところで、我々の定義、判断からいきますと、近隣、中学校から最寄りの高校に入るエリアが地元ということだというような判断をしております。ですので、田島高校でいけば、荒海中とか田島中とか、場合によっては近隣ですので、下郷中なんかもというところを地元というふうに考えております。

一方、南会津高校ということになりますと、近隣といえば、やはり南会津中ということなん

だろうというふうに思っています。

では、その地元、今申し上げた地元という考えで我々はちょっと定義をしておりますので、そういうことからいきますと、南会津高校に通われている南会津中学校生の割合が約半数程度ということであれば、そこは特別に地元の入学者の割合が著しく高くないだろうというような判断をさせていただいているところでございます。

○室井嘉吉議長 9番、大桃英樹君。

○9番 大桃英樹議員 その入学の割合というのは、地元の割合というのは、ほかから来ればそれは減少するのは当然じゃないですか。でも、魅力があるから遠くから来るんじゃないですか。そもそも我々の地域、辺境ですよ。例えば会津若松市まで電車で通っている子もいます。選択肢がそもそも少ないんです。選択肢がないんですよ。さらに減らすということ。

だから、数の問題でいうのであれば数で返しますが、これは南会津高校が努力をして学力を上げて、一定の経緯があるから田島地域から南会津高校に行くんです。そのことに対して、ただ単に数で言ったら、それは減少するでしょう、南会津中学校の子供たちは少ないですから。ただし、南会津中学校から入学者の割合を考えれば、かなり多いはずですよ。7割から8割毎年入っています。

しかし、今回、皆さんが示した計画、これをやったことによって今回の学校基本調査、その進路希望調査においては、56%に減っているんですよ。では、それが田島高校に行くか、ゼロです。それ以外の子供たちどこに選択しているか、会津若松市とか郡内ですよ。

こういったことは改革なんですか、数の問題でおっしゃったので数の問題でお答えいたしました。ぜひしっかり分かるように説明してください。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 回答させていただきます。

南会津中学校の生徒さんのほとんどが南会津高校に通われている。そのことは我々も承知しているところでございます。

ただ、一方で、田島高校の状況はどうか、あるいは南会津高校の状況をちゃんと分析をして、その上で今後の在り方を考えていこうというときに、南会津高校と南会津中学校の関係だけではなく、ほかの要素も当然あるわけです。南会津高校には田島中学校、下郷中から通っていらっしゃる方もおりますし、そういうことを把握するためには、南会津高等学校の在籍している生徒を分析して、地元ですね、地元出身者の割合を算定したというところでございます。

別な観点で申し上げたいと思いますが、南会津高校、田島高校、南会津町の高等学校で起き

ていること、他地区への流出というお話も今いただいたところです。確かに現在起きていることの1つは、会津若松市方面への流出、これも年々増えているという状況であります。また、生徒の減少ということも確実に起きているというところでもあります。

その中で、先ほど魅力というお話もありましたが、我々としては、教育内容を充実させて魅力ある学校、教育環境を提供するというのが最も大切だというふうに考えております。このままですと、今両校とも40人ちょっと、40人強の人数しかいないというところでもあります。このまま進めば1学級ということも見えてきてしまうという状況ですと、先生方の数も当然減ってきますし、学び合いという生徒の数が減ることによって学び合いもできなくなってくる。

そういう状況をかながみまして、私どもとしては、教職員も確保できる、生徒の数も確保して、充実した教育環境を整えられる統合ということをご提案させていただいているという状況でございますので、どうぞご理解いただければというふうに思います。

○室井嘉吉議長 9番、大桃英樹君。

○9番 大桃英樹議員 すみません、少し大きな声で質問してしまったこと、ご無礼お許しください。

しかしながら、例えばこれというのは、東京と福島の関係でいっても同じではないでしょうか。東京には地方からたくさんの方が行っているから、たくさん学校があって、地域は減ってくる。我々は、7つの生活圏の中の南会津という地域に住んでいます。等しく教育の機会を与えるのが皆さんの責務、そのような環境をつくるのが責務。

しかしながら、合意形成も、行政の職員としてまずは合意形成もしっかりしていない。だから、我々こういった機会をつくらなくてはならない。本来であれば、十分な説明、納得した教育内容、そして将来への希望、こういったものをしっかりそろえて、住民の皆さんとともに、では、新しい教育のスタイルをつくっていきましょうと。地域の在り方を考えていきましょうというのが県の責務ではないでしょうか。

ここは、議会です。議会は、住民自治の原点だと言われていています。我々は住民からの負託を得て、そしてこの場合に立っています。ですから、ここで心にないこと、信用されないようなことを言うてはいけないと私は信じてここに立っています。

その観点からすると、皆さんのお話はもう2年ぐらい同じことを繰り返している。私は、先ほど冒頭の質問でお話ししました。その審議の過程を教えてください。どこで誰がどのような発言をして、このような経過になっているんですか、まだ審議中になっているんですか。そのような透明性を示すのが、このような計画を進める上でとても大事だと思いますが、改革監は

どう思われますか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 審議の過程ということでございます。お手元の資料で、資料1というページがございます。これは今までの審議の過程でございます。上の段、福島県学校教育審議会というもの、こちら有識者、具体的に申し上げますと、市町村の市の代表の委員、それから町村の代表の方、それから報道関係の代表の方、また、あるいは大学、PTA、それから経済団体、こういった方19名委嘱をしまして、その中で県立高等学校の在り方について答申をしていただいと。そうした大きな教育の方向性について、議論をいただいて答申ということを示していただいたということでございます。

それを受けまして、学校審議会の中でも丸2つで、平成28年7月からということで学校訪問、都市部のみならず中山間地域の学校も訪問をし、そういった審議会の方々に現地を見ていただいて、高校生、それから教職員の方からもご意見をいただきました。

それから平成28年12月、中間まとめというところの前段でも、県内7地区で審議会にて教育公聴会ということで実施をしていただいて、そういった有識者19名の方々、それから公聴会でのご意見、そういったもので今後の県教委の高校教育の在り方というものを県に答申をしていただいたところでございます。

その答申をいただきまして、県のほうとしましては、平成29年11月に改革の大本となります県立高等学校改革の基本方針と、この10年の進め方というふうな方針を示しまして、県内でやはり7地区で公聴会、それからパブリックコメントのご意見をいただいて、それらを含めて、改めて基本計画の素案から正式な案ということで、今後10年間の基本計画を平成30年5月に作成をしました。

この作成に当たりましては、当然ながら県の教育委員会として教育長も参画される教育委員会の中でご審議をいただきまして決定をしていると。それに基づきまして、個別の統合、それから学級減という形で1つが今いろいろお出ししていただいています前期実施計画、ここに書いてあるとおり2019年度から2023年度までの5年間を期間とする実施計画、これを教育委員会の中で計画として決定をして今説明をさせていただいたところであります。

なお、今回、前期ということですので、一番下の段ですけれども、2024年度からは5年間ということで、今後、後期の実施計画というものも、また出てくるというような状況でありまして、様々な委員の方々、それから県民、生徒、そういう方々のご意見もいただきながら、検討してきたというのが結果で出てございます。

○室井嘉吉議長 9番、大桃英樹君。

○9番 大桃英樹議員 私が答えを求めたのは、それから後の計画を立てて、地域の声を皆様方が拾われて、それで持って帰ってどこで審議されているんですかというお話なんです。教育委員会内で議論されているのであれば、議事録を公開してください。そのような話があった、議題に上がった、教育委員の方がどう話された、そういったことを示してください。

それがないから過去のこと、計画が決まるまでのこと、そしてこれからのことに関しては、検討中ということが続いているんです。私はこのことがみんなにとって不幸を生んでいると思っていますので、ぜひこれからまた各論議で質問をほかの議員からしますので、ぜひその旨しっかり心にとめて回答いただければと思います。

○室井嘉吉議長 5番、室井英雄君。

○5番 室井英雄議員 私からも質問をちょっと行いたいと思います。

協働推進校ですね、今いろいろな話の中で南会津高校は適合するでしょう、これ。そちらが入学者がどうのこうのと言いましたけれども、十分にこれ適合する高校になると思われませんが、その1点だけちょっとご回答お願いできませんかね。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 地域協働推進校ということで、現在、1学級本校化を行っております6校について指定させていただいているというところでございます。1学級本校化になりますと、教員の数が減りまして、それまで2学級で行ってきた様々な教育活動が制限を受けてしまうということもございますので、地域のお力もお借りしながらということで、6校につきましてはコミュニティスクールという制度を設けまして、地域の方々、あるいは自治体の方々に学校の運営に直接関わっていただき、学校運営協議会というものに参画をしていただきまして、地域とともに学校の在り方、教育の在り方、あるいは協力関係の在り方を考えていきたいと思いますというような仕組みを導入しているところでございます。

1学級本校化というところの教育内容をさらに充実させるという目的で、地域の方と一緒に学校づくりを行っていこうという考えで、地域協働推進校という位置づけにさせていただいております。

○室井嘉吉議長 5番、室井英雄君。

○5番 室井英雄議員 ただいま改革室長がご説明されたその全て、南会津高校に適合すると思うんですよ、私は。どれだけ南会津高校が地元で愛されているか、お分かりになっていきますよね。

この後に詳しい内容は、私の次の質問者が多分尋ねると思うので、ここでは詳しい内容はお話はしませんけれども、十分そういうことを踏まえてこの基本改革の、基本方針の理念に、先ほど改革監さん言いましたね、いみじくも魅力ある高校づくりと。生徒1人の資質や能力向上をさせるために、今強引に統合する、今の段階ですよ、統合を進めていけば、みんな平等に受ける、教育の受ける権利、それすらも危ぶまれてきますよ。言っていること分かりますか。

なくなればみんなどこかに行くだろうという、そんな考えじゃ駄目ですよ。経済的に行けない、進学を諦めざるを得なくなるような子供ができた場合、県はどう責任取るんですか、そこまで考えてこういう計画を進めているんですね、進めているんですか。

私もちょっときつくなってしまうかもしれませんが、明確なお答えをいただいて私の最後の質問にします。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 私どもとしては、繰り返しの内容になってしまうかもしれませんが、この地域に高等学校の教育は必ず必要である。しかも、ただ高校を置くということではなくて、それを充実させて地域の子供たちに提供しなければならないという使命を負っているというふうに考えているところです。

ただし、現在の生徒の数、ほぼほぼ1学級定員の40名をちょっと超えるぐらいの人数まで減ってきているという状況では、十分な教育活動、教育内容の提供ができないというふうに考えておまして、今の時点で統合すれば、統合校は3学級規模、その中で総合学科という学科にいたしまして、教員を多く配置してより魅力のある学校づくりが行えるというふうに考えております。

私どもとしては、そういう教育環境を提供することで我々の責任、使命を果たしたいというふうに考えております。

○室井嘉吉議長 次に、7番、丸山陽子君。

○7番 丸山陽子議員 私のほうからは、地域振興への影響についてお伺いをさせていただきたいと思います。

今、本当に前の室井議員のほうからお話ありましたけれども、人数が少ないと教育ができないという回答をいただいておりますが、本当に望ましい学校規模を1学年4から6学級にしていますけれども、本当に人数が少ないといい教育ができないという観念はどこから来ているのかお伺いしたいと思います。

少ないほど、私は先生だったり、地域の方だったり、関わる方が本当にその生徒を支えて、

その学校を守っていくという体制が取れていっていると南会津高校は思っておりますけれども、どのようにその辺について、本当に人数が少ないといい教育ができないのかどうか、今の回答についてまず初めにご回答いただきたいと思います。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 学校の役割、いろいろな役割があると思います。一番大きな学校の役割というのは、その後就職する、あるいは進学するということに必要な、あるいはもっと大きな言い方しますと、これから生きていく人生を歩むに当たって、基礎となる学力をしっかりつけていくということが必要なであろうというふうに考えております。

その中で、仮の話をちょっとさせていただきますと、学級の数が今は両校とも2学級規模、統合校は3学級規模で大きくしたいというふうに考えておりますが、仮に1学級規模というふうにどんどん小さくなっていった場合、教員の数が減ります。減りますと、受けることのできる科目の数が減ってしまうんです。あるいはこれまで選択できていた科目が選択できなくなる。例えば音楽、美術、書道の選択があったんだけど、音楽しか選択できなくなっちゃったというようなことですか、あるいは部活動も多くを設けることができない。しかも人数がいないので集団競技は無理、個人競技だったり、あるいは文科系の部活動しか残っていないということになってしまいます。必ずしも1学級にすることが教育活動を充実するということにはつながらないというふうに考えております。

繰り返しになりますけれども、統合すれば今の段階であれば、学校を大きく造ってより充実した環境を整えることができるというふうに我々は考えておりますので、統合というご提案をさせていただいているということについては、ご理解をいただければというふうに思います。

○室井嘉吉議長 7番、丸山陽子君。

○7番 丸山陽子議員 統合して大きくすることが教育の根本というふうに、今お話の中でそういうふうに伺いましたけれども、これまで南会津高校というのは地域に生まれ、地域を育む高校として、地域の方々と本当に郷土を学んで、郷土を愛してそれぞれの取組をされてきておりました。私も南会津高校の方々がそういう実習をされていて、その発表会とか、そういうのを見させていただきましたけれども、本当に郷土の中で地域の方々に育てていただく、本当に生徒同士の教育観が、生徒同士で友達になったり、本当に思い合ったり、そういうことはあると思います。

だけれども、本当にその中に高齢者だったり、小さな子供だったり、本当に全ての地域の方々と関わることは、人間形成の中で本当に必要になってくると思います。先生と生徒だけで

はなく、そういうところも本当に大事な要素になると思うんですね。皆様のほうから示された検討する統合校の特色化という中に、地域をフィールドとした探求的な学びを導入とか、地域のよさを国内外に発信というふうに書かれておりますけれども、これからの高校改革の中で、本当に地域を学んで地域のよさを発信していくという学びが取り入れられるというふうに、学習が取り入れられてくるのではないかと考えていますけれども、その中で本当にそういうものをもう既に南会津高校は実践をされている学校でもあります。

そういう中で、人数が少ないという理由だけで大きくする、統合して大きくして勉強だけを支えるような、そういう教育ではなくて、地域の方と一緒にいい学校を造り上げていくということも、私は大事だなというふうに思っているんですけども、その辺についてはどのようにお考えでしょうか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 ご指摘いただいたとおり、南会津高等学校の先生方非常に地域との連携という意味では、非常に頑張ってきて来られた、努力されて来られたんだというふうに思います。

また、地域の方も学校の活動にご協力いただいて、これまでよい活動を続けてこられたということにつきましては、感謝を申し上げたいなというふうに思っております。

一方で、今2学級規模で定員80人として、80人規模の教員を配置をしているというところでございますが、先ほど来ご紹介しているように、生徒の数が減ってきているという状況、これからも底が見えない状況でございます。

さらに、他地区への流出ということも増えてきて、その割合が増えてきているというのも現実でございます、このままにしておけば教育活動、2学級規模の一番困難であるというふうに我々としては判断をさせていただいている。2学級規模の維持が仮に困難だというふうになった場合には、今までも提供できてきたよい教育環境、よい教育活動が十分に行われるということはなかなか難しい、困難になってくるというふうに考えているんです。

そうしたところから統合させていただいて、ただ、南会津高等学校の育んできた教育活動、あるいは大学進学へ向けた指導、あるいは田島高校のほうも一生懸命頑張っておりまして、地域の企業さんへの就職の実績を高く上げているところでございますので、この田島高校のよいところも生かしていきながら、両方のいいところを継承した統合校ということを私どもとしては考えているということでございます。

○室井嘉吉議長 7番、丸山陽子君。

○7番 丸山陽子議員 私も田島高校卒業ですので、その辺は田島高校のよさも分かっておりますけれども、南会津高校の本当に、南会津町は先ほど委員長からも話がありましたけれども、1町3村が合併して、本当に山を越えての、本当に平らなところが合併したのではないということなんですね。1つの山を越え、また2つ山を越えたりとか、そういうところが合併してできている町でもあります。

そういう中で、郷土の歴史も違いますし、文化もちょっと若干違います。盆踊り1つ取っても本当に踊りも違いますし、盆踊りのやり方も違ったりしています。そういう中で、本当に郷土を愛しながら、南会津高校は地域のよさを地域の方々と育てているということだけは、そこを本当に忘れないでいただいて、そこからもう一度本当に統合が必要なのかどうか考えていただきたいというふうに考えております。

ぜひ大変な中で頑張ること、それを教えることも、また1つの教育であるというふうに思います。

これは小学校ですからあれなんですけれども、たった1人の、1年生から6年生までたった1人で、本当にその後が入学する予定も何もなくて、たった1人の6年生が卒業するまでその学校が存続したという、そういう事例もあります。少なかったからといって、ただそれだけの理由で統合するという考え方にだけはなっていないなというふうに思いますので、ぜひそのところは生徒、またそのご家族の皆さんが望む場所がある、そこを望んでいるというところに対しては、しっかりと考えの中に入れていただいて進めていただきたいなというふうに思います。ぜひそこは考えて進めていただきたいなというふうに思います。

次に、私のほうからもう1点なんですけれども、政府の教育再生実行会議は9月8日、小・中学校教育のワーキンググループの初会合を開いて、新型コロナウイルス対応を踏まえ、少人数学級を令和時代のスタンダードとして推進する方針で合意したというふうに聞いております。

そういう中で、少人数であるからこそ、これから本当に新しい生活様式で進めていく中で、学校も大きくすることではなくて、一人一人が本当に離れていけるというか、感覚を持って授業を受けられるというか、そういう意味では、今、統合をもう一度考える時期なのではないかというふうに私感じたんですけれども、その辺についてはいかがでしょうか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 今後コロナ禍ですね、あるいはコロナ禍が過ぎた後の新しい社会というところに関する広い話題というか、提案だったのかなというふうに思っております。いろいろな観点の切り口があるのかなというふうに思っておりますけれども、1つは、文部科

学省のいわゆる標準法といいまして、教職員の配置の定数を定める法律があるんですけども、基本的には1学級40名を基準として設定されているということですので、今の段階でいわゆる少人数学級ということは難しい状況でございます。

ただ、少人数授業ですとか、例えば1つのクラスを分割した授業ですとか、あるいは選択を多く設けた授業という少人数授業につきましては、これからしっかりと研究していかなければならない。これまでもやってきているんですけども、さらに研究をしなければならないというふうに考えております。

少人数指導ということに関して申し上げますと、やはり先生の数が必要だということになります。あまりこれまで話題になってこなかったことに、新しい統合校の総合学科ということがございます。総合学科は普通科で同じ規模の学校、普通科の3学級規模に比べて総合学科の3学級規模のほうが多く、より多くですね、人を配置できるという仕組みなんですね。なものですから、統合校につきましては、3学級で総合学科でより多くの職員を配置をして、その中で議員がおっしゃったような少人数の授業なども展開できますし、例えば大学進学を思いよりそこに力をかけていこうという取組ですとか、あるいは生徒たちが町に出て探求活動をするという、あるいは地域の住民の方と行動するということに力をかけていこうという取組もできるというふうに考えて、総合学科、そして教員を配置して、よりよい教育内容をお子さんたちに提供していきたいというのが私どもの考えでございます。

○室井嘉吉議長 7番、丸山陽子君。

○7番 丸山陽子議員 本当に先生の配置とか、そういうものを考えれば、統合というお話ですけども、やはり私たちは子供たちのこれからの将来のこととか、それを本当に真剣に考える中で、教育の在り方を考えていくのが本当の教育の在り方だなというふうに思うんですね。

だから、先生だったり、そういう回りの者が少ないとか多いとか、そういうことよりも、1人の生徒がどういうふうに、高校というのは、本当に初めて自分がどの方向に人生を進んでいくかと決めるときが一番最初の選択になると思うんですね、高校選択というのは。本当に自分はこのものになりたいとか、学者になりたいとか、先生になりたいとか、そういう思いがあると、自分が初めてこの学校にしたいとか、こういうふうになりたい。その中でも地元の高校でしっかりとお母さん、お父さんの元で、地域の元で学びたいという生徒もいたり、また、いろいろな家庭の事情で高校に行けない方もいるかもしれません。そういう本当に一人一人の思いが詰まるものが一番最初に選択、自分の意思で決めていかなければならない一番大事な通過

点だと思います。

そういう意味では、子供たちが迷いのないようなそういう道筋をしっかりとつくっていただくことが、やはり教育の現場にいらっしゃる皆さん方の努めではないのかなというふうに思います。

ぜひ、誰のための学びやであり、誰のための学校統合なのかというのをもう一度改めて考えていただく。今回、コロナ禍でもありますので、そういう中で、本当に一人一人が人との関わりを大事にしながら進んでいける新しい統合の在り方というか、そういうものをしっかりと、先ほどから委員長のほうからもありましたけれども、しっかりと道筋を立てていただいて、誰もが納得するようなそういう進め方をさせていただくことを期待しまして、私の質問は終わらせていただきたいと思います。

○室井嘉吉議長 15番、楠正次君。

○15番 楠 正次議員 それでは、私のほうから再質問という形で質問させていただきます。

これまでの課題、そして今後の進め方、そして統廃合の成果について改めて質問させていただきます。

これまで生徒を対象にした説明会では、統合することを前提に説明されてきました。高等学校教育の直接的受益者である生徒、保護者、将来の受益者である中学生の生徒、保護者、この人たちの声を重視する。そして地域住民の理解と協力を得る。これが、地域とともにある学校づくりの重要な課題だというふうに認識しています。

先ほど他の議員から細部にわたって通学距離の問題や自然の多さ、冬期の厳しさ、峠を越えるバス通学、活動の充実が困難など、多くの枚挙にいとまのない負の現状を示されましたが、これらを解決する案を示して、示されていないと思うんですね。総合学科によるメリットの部分は説明されますけれども、丁寧に議論を重ねて合意形成に努力していただきたいと思いますというふうに思いますが、いかがですか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 ありがとうございます。

まさに地域住民の理解と協力、それから合意というものが、非常にそこは重要だというふうに思っております。今回の統合案につきましては、先ほど来ちょっとご説明しましたとおり、外部の方々に入っていたいただいた審議会、それから公聴会、そういった形で意見をお聞きした上で、統合というものの方針を決定をさせていただいて今進めているというところでございますが、今ほどお話のありましたように、我々としましても、中学生、それから保護者の方、また、

こういった議会の方々、それから懇談会の方々からのお話をいただいて、課題に対する対応というものについて早くしっかり示すべきだというふうなお話を今日もいただいているところがあります。これにつきましては、本当に我々としても一日でも早くしっかりしたものをお示しできるように努めていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○室井嘉吉議長 15番、楠正次君。

○15番 楠 正次議員 先ほどから改革監のほうから、今後は3回目の懇談会で丁寧に説明をし、皆様の理解を得られるようにというふうなことで、これまでとあまり変わらない、そういう答えしかできない辛さもあるんだというふうに私も理解しますけれども、平成28年度の学校基本調査報告書によると、高等学校の再編整備計画について、これは文科省の部分であります、成果と課題が載っています。

成果の3項目については、当地域にはほとんど当てはまらないというふうに私感じるんですけども、皆さんはどうお考えか、その成果の部分読ませていただきますと、「適正規模の学級数を満たす学校が増加し、部活動等の集団活動の充実が図られた。2点目としては、地域ニーズに応じた新たな学校や学科の設置を通じ、志願者が増加した。3点目は、普通学校と専門学校、農業高校と工業高校との統廃合によって総合学科が創設されるようになって、生徒のニーズに応じた多様な教育ができるようになった。」この部分は先ほど総合学科となった場合に教職員の配置を多くできて、充実した教育ができるというふうな話しされましたけれども、この1番目と2番目、これは今回の統合がいまいち統廃合ではなくて、西部地域の子供たちが、南会津高校に通っていた人たちが田島高校に果たして通うのか。先ほど委員長の話の中にもありましたが、志願率が低くなっていく。そうすると、これから先、他の地域に進んだりすると、3学級の集団での部活動ができたりとか、志願率が増加するという事は考えにくいのかなというふうに思うんですが、その点についてはどう思いますか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 私どもとしましては、先ほど申し上げたような統合によって生徒が一定規模集まり、あるいは教職員を多く配置しているというところで申し上げたところですが、ポイントというか大切なのは、いかに生徒にとって魅力ある学校にしていくのかということが大切なんだというふうに思っておりまして、当該校の先生方にも加わっていただきながら、では、統合校をどういう学校にしていくべきなのかということについては、話し合いを進めているところでございます。

魅力化を図ることによりまして、先ほどもありましたが、現在の南会津町から外に流出していく生徒をできるだけ少なくする。南会津町の中で大学の進学もしっかりできるし、就職もしっかりできるという環境を整えていくこと、さらには下郷や、あるいは会津若松市内からも生徒を呼び込めるような、そういった学校づくりを行っていくことが大切だというふうに認識しております。

○室井嘉吉議長 15番、楠正次君。

○15番 楠 正次議員 その魅力化についてが、高校に通った生徒にとって魅力的であることは大事だと思います。ただ、その高校に通うために、先ほど1番議員がやる申し上げた、本当に山口から田島高校、その山口まで行くのに、おうちの方に送っていただいととかという話がありましたけれども、そこも、先ほど出た大桃とかからだったら相当な距離ですよ。ご存じだと思いますけれども、そういう中を冬の雪の中、そこまで毎日送り迎えをして山口までとかというのは、現実的に無理な話ではないかなというふうに思います。

続きまして、課題のほうに移らせていただきます。

課題は、1点目が統合等に伴い、高等学校がなくなった地域における社会活力の低下、これが上げられます。2点目には、OBや地域住民との理解が得にくい場合があり、統廃合を決定する過程に問題がないか、これを検討する。3点目は、統合を実施したものの志願率が低迷する事例もある。これなどまさに、この南会津町の県立高校の統合がそうならないように祈るばかりでありますけれども、統合後の魅力化が課題。4点目は、統合に伴う通学距離及び通学に要する費用が増加し、生徒、保護者の負担が増加。生徒だって、先ほど丸山議員からもありましたけれども、平坦なところを電車で1時間なら許せるかもしれません。電車の中で勉強するとかというの。峠を越えて、冬期間の30キロ、送る部分からいけば40キロ、50キロといったようなところは、やはり通学できる範囲ではないんだろうというふうに考えます。5番目としては、小規模校として存続させる学校における教育環境の充実が必須、そして教員の配置、ICT環境の充実が上げられています。6点目には、今後の生徒の減少予測を踏まえたさらなる統廃合の検討が必要。この5番目と6番目は、まさにおっしゃっているとおりかもしれません。しかし、統合して魅力ある学校が本当にできるのか、そこが担保されていない。そして去年の2月の我々議会において説明していただいたときに、質問の中でも検討、そして7月にも検討、今年度の南郷でも検討、これが繰り返されるところでありますが、この辺についてこの課題、1から4の課題解決、そこについてはどう考えますか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 まさに文科省の報告の課題というのは、非常に我々としても大きな課題になっております。そこをいかに我々教育委員会で検討して実行していくべきもの、それから地域振興というものについては、まさに事務局も含めて検討して実行していくものというふうに思っております。そこをしっかりとしていかなければ、トータルでしっかりとしていかなければ統合というものの成功というのではないだろうというふうに思っております。

また、特に地域振興の部分につきましては、当然教育委員会だけで対応できるものではございません。これは当然ながら県教育委員会の計画ではございますが、しっかりと知事も認識をしまして、統合によって影響が出る地域の振興については、しっかりと対応していくということで、県の知事部局であります企画調整部、それから地域振興局にもしっかりとするという指示も出してもらっていますし、我々も連携しながら取り組んでいきたいというふうに思っておりますので、そういった課題、非常に我々としても認識をしておりますので、そこをしっかりとクリアできるように対応していきたいというふうに思っております。

また、倍率の低迷とか、そういったところについては、うちの小林が申し上げたように、高校の1つの魅力化というのが非常に重要なキーポイントでございます。それにつきましては、人的資源、それからICT、そういったものも含めてしっかりと対応していきたいと思っておりますし、さらには一番今日の大きな課題ということでお話いただいております通学の時間的な負担、それから金銭的な費用、ここら辺がしっかりと私どもで示していないというのが、非常に混乱を招いているというのが原因であるというのは非常に認識をしております。先ほど来検討中ということで話をさせて申し訳ございませんが、これにつきましては、本当に早急に皆さんにお示しできるように対応してまいりたいというふうに考えております。

○室井嘉吉議長 15番、楠正次君。

○15番 楠 正次議員 検討結果、そして課題解決というふうに、皆さんの、教育庁のほうの考え方をはっきりと示していただける懇談会になることを、第3回ですね、期待しておりますが、今教育庁の分野ではないと言われましたけれども、やはり統合、一緒に集まるんですけども、廃校となるほうの学校、その地域の活力、これはやはりここで残す、これは何としても通学距離の問題から無理だと。私はそう思っているんです。

南会津高校に、例えば館岩地域から通っている子供がいない。通えないから通わないんです。50キロ以上、館岩から田島高校に一番遠い子だと55キロ。そこを通った子もいます。けれども、本当に大変な通学です。授業に1年の頃は大変だったというふうに聞きました。部活動ももちろんできません。高校生活というのは、部活動の充実ということ、先ほどありましたけ

れども、成果の中にもありますけれども、これも充実、大事だというふうに思います。

そういうことを統合した学校ですのか、それとももう一度もうちょっと時間をかけて、だって、通えるでしょう、送ってもらったらいいでしょうというところが、私は館岩地域からだったら南会津高校のほうがはるかに近いんですけれども、公共交通がないから通わないだけであって、館岩の子供たちは今言ったように、田島高校に通うのにもとんでもない距離を通わなくてはいけないから、だったら下宿するんだったら、会津若松市内でも郡山市でも福島市でも。地域の衰退につながる。これは私の生まれたところから会津美里のほうに、子供が高校生になる、そのときに一家で引っ越した人もいます。そういうことになりかねない、なるのかなというふうに思います。

今、館岩地域は580世帯、そして伊南地域は館岩よりも100世帯以上少ないんです。でも、伊南地域の子供のほうが多いんです、子どもの数が。というのは、館岩地域はどこの高校に行くにもなかなか通えない。南会津高校に公共交通さえあれば近いんですよ、田島高校より。田島高校には公共交通があるけれども、それでも先ほど言ったように、一番遠いところから55キロ、50キロ、45キロとかというとんでもない距離をバスで峠を越えて通学をする。それがこうやってみたらできないわけです。ほとんど行けないんです。

だから、生徒の負担を考えると、身体的な負担ですね、考えると、やはり会津若松市とか郡山市とか、経済力のある人はできますけれども、これから成長するような時期だと借り入れてしてもどんどんという思いもありますけれども、その辺が厳しい。

ですから、1学級規模でも、先ほど室井議員が言った協働推進校、それであってもその地域に通える子供はほぼ、高等学校は義務ではないからとおっしゃるかもしれませんが、ほぼ義務教育に近いだろうというふうに思いますから、通える距離、これはぜひもう一度再考して、しっかりとした答えを出していただきたいというふうに思います。と申し上げまして、終わります。

○室井嘉吉議長 9番、大桃英樹君。

○9番 大桃英樹議員 すみません、長時間にわたってしまいました。しかしながら、私のほうで総括ということで質問させていただいて、今日、文教厚生委員会からの質問を終了させていただきますので、もうしばらくお付き合いください。

学校基本調査の進路希望調査結果というのは、県の皆さん把握されているのでしょうか。

例えば喜多方高校と喜多方東高校、来年度からもう既に統合が決まり、そのような入学の状況を整えつつあるんだろうと思いますが、いかがですか。その状況は把握されていますか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 県教育委員会では実施している進路希望調査ということでよろしいでしょうか。

〔「はい」と言う者あり〕

○小林寿宣県立高校改革室長 私、以前、進路希望調査の担当をしておりましたので、状況は把握しておりますけれども、現在、7月と9月と12月、3回ほど進路希望調査させていただいているところです。今現在出ているのが、9月時点が最新なのかなというふうに思います。

これから夏休みの体験入学、あるいは三者懇談なども経ていって、12月にさらに懇談をしていって、最終的な進路を決めていくというところだというふうに思いますけれども、生徒の希望状況、刻々と変化するという状況もありますので、その辺のところは重視をしていきながら、あるいは9月と12月の人の動き等も見ながら分析をしていくことが必要なのかなというふうに考えております。

○室井嘉吉議長 9番、大桃英樹君。

○9番 大桃英樹議員 恐らく明らかになってくるだろうと思います。特に都市部ではなくて、町村部、周辺部においては、そういったことが功を奏しない、1足す1が2にならないという状況が多分見えてくると私は思います。

なぜそういうことを言うかということ、今ほど質問させていただいた文教厚生委員会の中で、いろいろな質疑を重ねました。いろいろなケースも考えました。田島高校、なかなかやはり通いにくい点が今でも実は多いんです。例えば荒海中からも電車に乗って1本で行けるからといっても、それでも会津若松市に行ってしまうような状況があります。それを魅力という言葉で片づけられるかということそうではなくて、いろいろな原因があるということ。地域においては、それぞれの理由があってそのようになっているということが明らかなんです。

なので、この結果が逆に1足す1が1を生まないような状況にならないように、ぜひもう一度検討していただきたいと私は思いますし、我々の総意は2校の存続です。どうやってこの地域を後世につないでいくかが我々の仕事だと思っておりますが、やはり教育と深い関わりがあるということ、強く申したいと思います。

我々の責務はそうであるから、皆様に非常に耳の痛い話をさせていただきますが、これは住民の声でもあるということもご理解ください。

そしてもう1点、明らかにしておきたいこと。それは特別支援学校についてです。

これまでの説明会で、よもすると統合が条件のようなお話がありましたが、これについてど

のような現在の状況か伺います。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 特別支援学級の関係でございます。県教育委員会ということで特別支援学級対応しておりますが、改めて私の職務は県立高校改革というところですので、そこについては、ちょっと私のほうで責任持って答える状況ではないのでご勘弁いただければと思います。

○室井嘉吉議長 9番、大桃英樹君。

○9番 大桃英樹議員 ぜひ、ここは別の話です。南会津地域、いまだに特別支援学校がないので、ここから会津若松市に通ったり、住所を移して生活している子もいる。果たしてそれで最終的に地域に戻って来られるのか、こういったこともぜひ知事部局にも、教育長にも伝えていただきたいと思います。

もう1点、すみません。これは南会津高校が廃校になってしまうのではないかとというふうなご意見がありました。私もそのようにしか見えない。だとするのであれば、その統合校の目標を決めるのではなくて、まず田島高校を総合学科にして魅力ある高校にして、実践を重ねて、実績を重ねて、そしてそれから南会津高校一定の数、もう無理だというような状況を見極めながら進めていく統合の在り方もあると思うんですが、これについては検討されたんでしょうか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 南会津高等学校を残してほしい、あるいはこれまであった学校がなくなってしまうのは寂しい、あるいは地域の衰退につながってしまうというご意見を非常に私どもとしても受け止めておりますし、理解しているつもりでございます。

ただ、現在の状況を考えますと、今の2学級規模で残せる状況ではないということ。また、仮に1学級となった場合、これまでの丁寧な大学進学指導というのを継続するのは、非常に困難であろうというふうに考えております。

先ほど別な議員のご質問とかお話の中で、いい学校が本当にできるのかというご指摘もいただきました。担保できないじゃないかというご指摘も、厳しい御指摘だったと思います。

ただ、私ども、一先生方も含めて目の前にいる生徒の進路をどういうふうに導いてあげるか、あるいは学力向上に向けてどんな指導をしてあげていったらいいのか、一生懸命考えているところでありまして、南会津高等学校の今の姿があるのも先生方の力だというふうに思います。田島高校の今の就職実績を上げているのも先生方の力だというふうに思います。統合校におきましても、先生方の力を十分に発揮いただいて、あるいはその数も増やさせていただいて、南

会津町の地域の生徒たち、子供たちによりよい教育環境を提供をしていくというのが、繰り返しのようになってしまいますが、我々の使命だという認識をしておりますので、その認識につきましては、ご理解をいただければ幸いです。

○室井嘉吉議長 9番、大桃英樹君。

○9番 大桃英樹議員 南会津には、15の春という言葉があります。15歳になったら親と離れて生活をしなくてはならないということが決定的な、地理的な条件、高校がないということが起因しております。まさにそういう地域になろうとするのではないかと、非常に危惧しております。

ぜひ今後、もう少ない時間です。先ほど第3回懇談会、それまでにとということもありました。早期にその日程を明らかにして、その中で住民に示せることを明確にしながら進めていただきたいと思っております。

この後、そのほかの議員の皆さんから質疑いただきますので、またよろしく申し上げます。

以上で終わります。

○室井嘉吉議長 以上で、文教厚生委員会からの質問、意見は終わります。

他の議員からの質問議員を……

〔「議長、すみません、先ほどの発言でちょっと誤りがありましたので、訂正させていただきます」と言う者あり〕

○室井嘉吉議長 15番、楠正次君。

○15番 楠正次議員 ごめんなさい。先ほど世帯数のところ申し上げましたけれども、館岩地域の世帯数が673世帯、小学生の数が30人、伊南地域が564で39人という、これが正確な数字でありますので、よろしく申し上げます。

○室井嘉吉議長 それでは、他の議員の質問、意見を受けます。

11番、高野精一君。

○11番 高野精一議員 長時間大変ご苦労さまですが、私からは1つ、要望という形になるかと思っております。

今から4年くらい前に、この高校の廃止、統合、そういう会議が下郷町でありまして、そのときに各地域の子供たちが、只見高校の生徒は、雪について地元で貢献できるような授業ができないかというような作文を披露しました。それから、この南会津高校の生徒は、私たち人口の少ない中で私たちに合った、沿った授業を私たちは受けていますというような作文がありました。田島高校は私、あまり記憶にございませんが、ただ、その中で下郷の中学生が読んだ作

文が大変これ私の記憶の中に残っておりまして、「私は行ける高校があるならば、私は南会津高校を選びたい。それはなぜかというと、やはり私たちに沿った、私たちの知恵に沿った学問を南会津高校は披露しているんです」ということがありました。そういうことが私は物すごく頭に残っております。

それで、私は田島高校の教頭先生、女の先生だったんですが、今こういう統合の問題が地域で揺れているので、どうかこの田島高校も1人の先生でこの生徒が少なくなった、この現実はあるわけだから、その先生のおかげでこの生徒数が南会津高校に増えていった、そういう流れもあった。そういうものを自覚しながら、どうか地域でこの田島高校のPR、そういうものを何とかできないでしょうかということをお願いに行きましたら、教頭先生いわく、私は県の指導で動きますから、そういう答えに対しては行動することはできません。

これは皆さん、こういうふうな立派なものをいっぱい書いたって、絵にかいた餅なんですよ。要はその学校を残す、この学校を残す、人材をつくる、そういう意気込みがあるならば、そういう人材を私たちはつくります。そういうことをなぜ言ってもらえないのか、私は不思議ではありません。そのことだけはひとつ答弁いただきたいと思います。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 当該の教頭さんがどのような方、私は存じ上げないんですけども、そのような対応を捉えたことにつきましては、代わりに謝罪させていただきたいというふうに思っております。

私ども先ほど来、我々の役目として、しっかりこの地域に高等学校の教育を残していきたいというふうに申し上げました。また、南会津高校の先生方非常に頑張っておられるというところも私ども把握しておりますし、一方で、田島高校の先生方も頑張っていないというわけではなくて、確かに大学進学というところでちょっと比べると落ちてしまうところがあるんですけども、逆に就職なら田島というふうな声をいただいているんだと校長先生からお話をいただいたこともございました。

我々一教員も含めてなんですけれども、一人一人の子供たちが自立して実際歩めるように、基礎学力、あるいは進路指導、丁寧にやらせていただいて、人材育成しっかりとその役割を果たしていきたいと思っております。

○室井嘉吉議長 11番、高野精一君。

○11番 高野精一議員 そのような答弁で、これは理想かなと、こう思いましたが、実質この地域を守るためには地域の先生も学校現場には必要なんですよ。だけれども、やはりそうい

う検証を、何でこう少なくなったんだと、何でそういうふうな流出がしたんだということも、この先のことを話すよりも、過去もちょっと振り返って、そういう現状があったからこういう減少が起きたのかというようなことも、1つは検証の中に入れてこのよりよい人材、そしてそういう人たちで地域をおこすというような人材の人を、どうか私は教育の現場に入れていただきたいと、そういう願いでございますので、私の質問は終わります。

○室井嘉吉議長 12番、山内政君。

○12番 山内 政議員 まず初めに、福島からご苦労さまでございます。

まず、私は平成31年2月28日、雪の中ですね、当議場で開催された初めての説明会、岡崎さんが来られたわけですが、議場で議員とのやり取りの中で、彼が持ち帰ってということが多々ありました。まず、私は議員でありますので、議場で起きたことについては、しっかりと町民に説明しなくちゃいけないというものを負っております。ところが、岡崎さんは4月になって人事異動で行かれました。今、おられる方が来られたわけですがけれども、それは引き継ぐということでもありますので、再度ここでちょっとお話しさせていただきたいと思います。

これは、私の質問ではなかったんです。私の質問のときは持ち帰りとやらなかったんですが、まず初めに、今日議場にいますが、渡部訓正議員の質問、いろいろ岡崎さんが説明をされました。渡部議員は、「結論ありきというふうに我々どうしても、私らは残念ながら捉えますと。そういうことでは絶対駄目ですよ」というふうに質問したわけです。それに対して、「私も組織の中でやっておりますので、今日のご意見は持ち帰りということでご理解を賜りたいと思います。」これが1つ。

次に、これは今壇上にいます室井嘉吉、当時副議長の質問です。質問は、会津若松市内の定数を削減してこなかったことに対する質問ですね。「定数を抑えることだって教育行政上から見たら教育環境じゃないですか」。これ教育環境を整えるという多分おっしゃったと思うんですけども、「それを誰がやるんですか。そのことは誰がやるんですか、そのことは。それは教育委員会がやらなかったら誰がやるんですか、それが地域における教育委員会の任務じゃないですか。私はそう思います。そのところをきちっと腹に据えて知事に言ってください」。それに対して、「意見についてはきちっと持ち帰りまして、上の者にもお伝えするというごことでお預かりをいたします」。行政用語ですね。

最後、当時、副議長の室井嘉吉副議長、今までどおり説明を受けました。「ぜひ今の考えを撤回して進めるということ、ぜひ撤回をして南会津高校、田島高校が従来どおりこの地域の中で人づくりに励んでいただけるよう、最高学府として存続していくよう、存続してできるよ

うに、逆にお力添えをよろしくお願い申し上げます」。これは岡崎さんに副議長はお願いしたわけですが。それに対して、「今日いただいたお話についてもきちっと持ち帰りまして、上のほうにつなぎつつ、共有をしたいと思っております」。

この3つですね、お持ち帰りになってどういう上に伝えられて、どういうことをされたんですか。これは議会に対して持ち帰って、預かっておられたあなた方が私たちに、議会に対して説明する義務があるんですけれども、どうですか。持ち帰られてもう随分時間たつんですけれども。まず答弁をお願いします。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 3点の観点でご質問をいただきました。

まず、結論ありきというところでございますけれども、我々としてはしっかりこういう案である、こういう学校づくりをこの地でしていきたいということを明確にさせていただく観点から、南会津高校と田島高校の統合という案であると。それはこういう理由であるということについて、まずは提案させていただいたというところがあるんだというふうに思います。

2点目の会津若松市内の高校の削減という観点でございますけれども、私ども生徒募集定員を策定する際には、どうしてもやはり生徒がどこの学校を志願しているのかというところを、注視をしなければならないというところがございます。希望者が非常に多い状況、一方的に削減というのはなかなかしにくいというところはございます。

ただ、その一方でなんですが、会津若松市内で志願者が多いという状況であっても、少子化が進んでいるという状況は全然変わっておりませんので、そこはやはりしっかり削減もしなければなりません。

実績を申し上げますと、来年度、令和3年度に向けて先日募集定員を発表させていただいたところですが、非常に人気の高い学校であります、会津学鳳高等学校、1学級減とさせていただきます。また、令和元年度には葵高等学校、1学級減させていただいたところです。

さらに1年遡りますと、平成30年になりますけれども、会津高等学校と若松商業の2校を学級減させていただいておりまして、それ以前も会津若松市内の学校につきましても、生徒減に合わせるというか、伴って、しっかりと定数の削減をさせていただいているという状況でございます。

最後に、撤回してそのまま存続させられないかということでございます。こちらについても、我々としても、いろいろ検討していつて残す方法もあるのではないかとというふうに、いろいろ

な最初の段階ですね、いろいろ検討をしてきたところですけども、今の他地区への流出状況、あるいは町の生徒の減少状況、現在、両校の生徒数が40名を若干上回る程度という状況を考えると、現在の2学級を維持するということは非常に困難というふうに判断しました。

さらに、1学級というのは非常に制限が多い学校でございますので、というならば、統合させていただいて3学級の一定規模を持った学校を造って、しっかりした教育活動をお子さんに提供していく、それが我々の使命だろうというふうに考えまして、現在の回答に至っているということでございます。

以上です。

○室井嘉吉議長 12番、山内政君。

○12番 山内 政議員 それでは、本論に入ります。

つまり、あなた方は持ち帰っても、その後の懇談会とかで実際議会でこういう話がありまして、持ち帰ったのでこういう話をさせていただきますということは、一度も言ったことがない。極めて不誠実です。そして担当が代わりますので、今日のメンバーも代わりましたよね。そうすると、もう1回ゼロからです。平成31年2月28日に説明をいただいて、今日また説明された。1ミリも、あなた方は私たちの話を聞いても、1ミリも進んでいない。もちろん後退もしていませんけれども。

つまり、あなた方は何のために懇談会を開いて、あるいは議場に來られて説明をして、納得させるためには、納得させる相手に対して納得させるだけの材料を与えるべきじゃないかというふうに議論として思うわけですよ。それが1ミリも前に進んでいないんですよ。ただ同じことを言っているだけです。教育長とか知事さんに、例えば南会津はこういう現状ですよと本当に言っているんですか。お答えください。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 私どもも県の教育委員会の人間でございます。教育長の命を受けてこちらに來てご説明をさせていただいて、ご意見をいただいているということでございますので、ここでいただいたものを報告する義務がございますので、当然平成31年2月28日にご説明をさせていただいて、ご意見をいただいたものについては、しっかりと教育長のほうに報告はしております。

○室井嘉吉議長 12番、山内政君。

○12番 山内 政議員 よかったです。その後ですよ、報告して持ち帰ったものはどこかで、これだけ南会津町に來ているときに、一度だってその話をしてないんですよ。引継ぎがなかつ

たとえばそれまでですけれども、私たちは議場で聞いているわけですから、あるいはテレビで見ている人もいます。でも、あなた方は新しいメンバー来るから、常にゼロから。これでは議論は深まりませんよ。それは言ってももうどうでもいいので、次の質問に移ります。ほっとしないでください。

次の質問は、福島県議会議長太田光秋様宛に、令和2年2月12日付で「県立高等学校改革における田島・南会津統合高校の方向性についての実態把握と地域協議を求める請願書」が提出されました。それはご存じですか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 承知をしております。

○室井嘉吉議長 12番、山内政君。

○12番 山内 政議員 その請願は結果としてどうなりましたか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 県議会の中で請願は採択をされたということで承知しています。

○室井嘉吉議長 12番、山内政君。

○12番 山内 政議員 行政の担当でいらっしゃいます改革監であれば、議場には出ないまでも、この議会で採択されたという意味はどういうふうに理解されていますか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 県議会、まさに県民の負託をされて、当選をされて議会運営をされているということで、その議会在採択をしたということでございますので、非常に重く受け止めております。

○室井嘉吉議長 12番、山内政君。

○12番 山内 政議員 今、重く受け止められているという話をされたということは、内容についても十二分検討されたというふうに思います。

今後、この請願について、これは実態把握と地域協議というふうなことをしっかり述べたりして、その中には地域の声ということで、約1万近い署名の声も一人一人皆書いたんですよ。一人一人が自分の手でそのことも書いてありますよね。持っていくたびに重く受け止めます。それは重いですよ、あれは。だけれども、あなた方から返ってくる返答は全然重くない。1ミリも動かさないという。全く真摯ではない。

そういう意味で、これからこれについてどういうふうに臨むのか、その請願に対してどういうふうに県は答えていくのか、しっかりとした回答をお願いします。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 その請願今ほどお話ありましたように、地域の実態把握と地域協議というふうな大きな2つの柱でございます。我々としましては、その請願の採択ということを受けまして、今年の夏に、先ほどちょっとご挨拶申し上げましたが、町内の中学校、それから中学校の保護者の方々に説明会ということでご説明を申し上げますとともに、ご意見もいただきました。それからアンケートも取らせていただきました。そういう意味では、そういった地域の実態・実情、保護者の思いというものの把握に努めてきたところであります。

また、その地域協議ということにつきましては、これも先ほど来お話をいただいております。今議員のほうからも納得する材料というふうな話もございました。そういったところでお示ししていないというのが、やはり皆様に対しての不誠実といたしますか、不信感といたしますか、そういうことだというふうに、それは重々承知をしておりますので、そういったものをしっかり早く整理をしまして、地域の協議の場、懇談会という協議の場にお示しをしていきたいというふうに考えてございます。

○室井嘉吉議長 12番、山内政君。

○12番 山内 政議員 手元にはないでしょうから、よくお帰りになって文面を本当精査してください。これは実態把握と地域協議というのは、2つ残していただきたいということですからね、いいですか、そのところはきちっと読んでくださいよ。

再度伺います。本当にこれ中身見て、このことについて、これは改革監の仕事かどうか分かりませんが、それはどうですか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 その請願、まさに私も当然承知はしてございます。それを踏まえて実態協議、地域協議を、実態把握、それから県で考えるものをお示ししながら、では、今お示ししている計画をどうしていくのかというところも踏まえて、地域協議に臨みたいと思っています。

○室井嘉吉議長 12番、山内政君。

○12番 山内 政議員 ちょうど最後のところ不明瞭でしたのでもう1回お願いします。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 請願を踏まえまして、県教育委員会としてどう対応していくのかというものをきちっと持った上で、懇談会のほうを開催してまいりたいというふうに思っております。

○室井嘉吉議長 12番、山内政君。

○12番 山内 政議員 念を押しますが、この請願は両校を残していただきたいというところでありますので、そこはしっかりと踏まえていただきたいというふうに思います。

今日もいっぱいメモ取られておられますけれども、しっかり聞いたことについてはどこかの機会です必ず答えるようにしていただきたいというふうに思います。今日は議事録取っておりますので、後でしっかり残りますので、歴史的なものになりますから、よろしくお願ひしたいと
思います。

先ほど議員の方から、うちの議員からそれぞれ質問をさせていただきましたけれども、6校だけ残って南会津高校が残らなかったという、そこに該当しなかったという話、私は室井議員が話をしたとおりでというふうに思っています。まさにあの項目は、南会津高校のためにあるようなことだというふうに私は理解しました。だから、あの項目で素直に読めば、当然残ると
いうふうに私は理解をしたんです。私の理解ですからね。

でも、岡崎さんはこういうふうにおっしゃったんです。苦渋の選択だと。何でそんなに苦渋
にならずにちゃいけないうんですか。今あるもの、いいものを何で取って、今一生懸命教員も、
生徒も、地域もいいと思って頑張っているのに、わざわざそれを取っぱがしてやらなくちゃい
けないうんですか。もう1回そのことについて答弁をお願いします。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 苦渋の選択という言葉を選択されたということでございますけ
れども、我々としてもいろいろな観点でデータを分析をしたり、町の様子を研究をさせていた
だいたりしたところでもありますけれども、その中で、これ繰り返しになって大変恐縮なんです
けれども、今の2学級規模、今の南会津高校2学級規模の中で、しっかりと生徒の指導、大学
進学への指導、そのほかの進学への指導しっかりやられていると、実績も残していらっしゃる
ということであろうかと思ひます。

ただし、現在のこの規模が維持できないというふうに我々は判断をしています。では、維持
できないとするならばどうなのであろうか。それはこの町にしっかりと教育活動の拠点を残す
ために、統合して3学級の総合学科の学校を造って、両校のいい取組は残しながら、継承しな
がら、総合学科の中で新たなよさを加えて、生徒の様々な進路希望、あるいは学習ニーズにし
っかり応えていきたい。そういう学校にしていくんだ。そして学校の魅力化を図ることで、地
域の子供たちにも、あるいは会津若松市内の子供たちにも選んでもらえるような、主体的に選
んでもらえるような学校づくりを考えていきたいというふうな考えでございます。

○室井嘉吉議長 12番、山内政君。

○12番 山内 政議員 それは何回も聞きましたので分かりましたが、では、今現在6校に指定された、例えば只見高校とか、川口高校は悪い教育をするんですか。

私は、南会津高校が只見高校と川口高校と同じ教育をしていただいで十分だと思うんですよ。残すだけの価値はあるというふうに思っていますので、その辺はどうですか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 いわゆる1学級本校化を選定するに当たって、県教育委員会としては、一定の基準を設けながらそれで検討していったわけでございます。1つの観点で、ほかにその学校がなくなれば、公共交通機関等を使って通学できる学校がないということが1つ。また、在校生の中の地元中学校出身者の割合が高いということの2つでございます。

まず1点目の公共交通機関での通学でございますけれども、2つの観点がありますが、現在、公共交通機関が山口停留所7時30分発だったかと思っておりますけれども、田島駅まで出ている状況でございます。それを踏まえると、通学できないという状況とまでは言えないというふうに判断をさせていただきました。

また、地元率につきましても、南会津高校の地元率約50%程度でございます。必ずしも地元率が高いというふうにも判断をしなかったというところでございます。

○室井嘉吉議長 12番、山内政君。

○12番 山内 政議員 今最後におっしゃいました、判断しなかったという。あえて判断しなかった。南会津高校を残さないための理由付けを多分これしてあると思うんです。二重になっているかもしれませんが、そうやって理由付けをして今日まで来られているなというふうに思いますけれども、前も言いましたけれども、私たち南会津町に住む人間も、福島県民ですよ。あなた方は、福島県民の教育をしっかりやらなくちゃいけないという使命を持っているわけでしょう。私たち南会津町は、西部地区に関して一生懸命人が来て生活できるような政策を今やっております。

それは、1つは、南郷トマトですね、南郷トマトの生産者の気持ちを新聞で出ていましたので、ちょっと読ませさせていただきます。トマト農家の人で移住された方です。「僕たちは、地元の南会津高校がなくなるのが寂しいではありません。切実に困るのです。今や南郷トマト農家の4分の1は、僕たちUターンやIターンの新規就農者です。地元で安心して子供たちが通える高校があるということが、移住を決めた決定の1つでした。さらに、このコロナ禍で首都圏から地方へ移住の風が吹いています。地方創生が叫ばれる昨今、ぜひともこの風を呼んだ

教育行政を切望します」。

先ほど丸山議員からもありました。結局、教育は、先ほど40名といたしましたけれども、少ないほうがいいということを言っていますよね。そういう意味で、コロナ禍の中で逆に今発想の転換をされまして、小さな高校でもしっかり残していこうと、そういうことを考える、先ほど言いましたけれども、時期じゃないんですか、どうですか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 1学級、先ほどちょっとうちのほうで申しあげましたが、法律に基づきまして教員の配置数というのは決まっております。1学級であれば何人、2学級であれば何人、そういうふうに学級数によって教員の数というのは決まっております。

先ほども申しあげましたけれども、1学年42名ぐらいということですが、ただ、2学級ですので、2学級規模の教員を配置をしております。裏を返せば、2倍の手を先生はかけているということになっています。

先ほど申しましたのはそこです、では、1学級になったら何人なんだというところで、正確な人数、いろいろ条件があるんであれですけども、今と同じ教員人数ではありません。当然減ります。当然減れば先ほどうちの小林が申しあげましたとおり、音楽、美術、書道、そういった選択科目も制限を受けます。理科の関係、物理、生物、化学、地学、こういうのも専門的にございます。こういうものが、例えば大学で専門的に物理を選択してきた先生が化学を教えるということになれば、おのずと学びの質というのが低くなるだろう。

我々としては、残したくないじゃなくて、残すことによってそういう弊害があるんであれば、ちょっとすみません、ご負担をかけますが、統合する、統合すればもっとよりよい環境になるんですよ。学びの質、環境を低下するのが目に見えているんで、そうじゃなくて、地域の人にちょっとご負担をかけますが、もっと魅力がある、もっといい学校を造りたいというのが我々の提案でございます。決して1学級だからなくすということではなくて、ただ、残っているほかの6つにつきましては、やはり地元から通えないとか、多数の人がいっぱいいて、そういう人が全部町場の学校に行く、負担をかける、それはやはりなかなか難しいだろうということでお勧めはできないですけども、1学級でも、では、そこはご勘弁願いますということで例外的にお願いをしている。

ですので、我々としては、そういった例外で学びの環境もちょっと低くなる、そういうのは極力お勧めしないで、なるべく我々としてはとる、県教委としてはとる対応ではない。ですから、先ほど来ちょっといろいろお話出ていますが、本当に通えるのかということころは、非常に

我々もいろいろ考えているところでありますので、ちょっとご負担はかけますが、本当に統合できるということであれば、そういった学びの環境を悪くしないで、より良いものができたらいいというのが我々の提案だということをご理解いただければというふうに思います。

○室井嘉吉議長 12番、山内政君。

○12番 山内 政議員 時間がありませんので、最後の質問になるかと思うんですけども、ちょっと変な質問ですけども、あなた方は南会津高校と田島高校を1つにするということで、例えば伊南地域の大桃であるとか、南郷地域の和泉田であるとか、もっと言うと館岩地区の、ここからどのくらいかかるよねという、そういう自分たちで実践した、そういうことはやっておられますか。そういうことを踏まえて我々に提案されているということによろしいんですか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 ご指摘ありがとうございます。私どももこの場に臨むに当たって、検討していくに当たって、この地域につきましては、何度も足を運んでおりますし、中学校さんのほうにも直接出向いてお話をさせていただくような場も設けさせていただいて、地域の把握には努めてきたと考えております。

○室井嘉吉議長 12番、山内政君。

○12番 山内 政議員 今日は本当にありがとうございました。我々の話があなた方の計画に1ミリでも前に進めるように、私たちの要望が少しでも入れるようなことで、しっかりと再度検討していただきたいということを申し上げまして、私からの質問は終わります。ありがとうございました。

○室井嘉吉議長 10番、湯田哲君。

○10番 湯田 哲議員 僕のほうから、資料3のグラフを見てください。

この南会津高校と田島高校、僕も今から50年近く前に田島高校を出た人間で、当時は1,000人以上、1クラス300人以上いました。それが今、10年前は101人で、今現在43人。南会津高校は46人で、10年後も42人。これは先ほどデータ分析という言葉や推測とかいろいろありますね。この10年間の推測でこの両校、5年後、10年後、どちら残っているんですか、お考えを聞きたい。データ分析どうですか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 繰り返しになって大変恐縮になってしまうんですけども……

〔「短めでいいですよ」と言う者あり〕

○小林寿宣県立高校改革室長 現在、2学級規模で学校を運営させていただいておりますが、

このままですと両校とも2学級での維持は非常に困難であるというふうに考えております。

○室井嘉吉議長 10番、湯田哲君。

○10番 湯田 哲議員 グラフ書いて、僕は算数苦手ですけども、横ばいでこうって4人しか減らないところと、半分以下になったこの直線は、どう考えたって、誰が見たって、小学校2年生のそのグラフを見たらば、それはマイナスに、平行線は平行線のままいかないですか。苦しい判断なんですよ。そんな推測もできないんでしょうか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 学校に生徒を呼ぶ、集める、その力になりますのは、学校をいかに魅力化させるかだというふうに考えております。

〔「聞きました」と言う者あり〕

○小林寿宣県立高校改革室長 例えばふたば未来学園高等学校がございますけれども、当初は募集定員を満たさない状況が続いておりました。学校につきましては、未来創造学という、まさに地域に生徒が出て行って学ぶという学びの充実を図ってまいりまして、それが評価されて、現在は募集定員を満たすような状況までおかげさまで至っているというところでございます。

現在、先ほど来申し上げましたが、流出をしている、流出がさらに増えている状況、さらに生徒の減少もこれからも続くという状況、それを踏まえているということもご理解いただければというふうに思います。

〔「何度も聞いていました」と言う者あり〕

○室井嘉吉議長 10番、湯田哲君。

○10番 湯田 哲議員 問題は、この平行線で南会津高校がここまで40人、40人、40人、50人、50人とあります。これは多分クラスの大きい時代もあったのでこうなっています。

要は、この平行線の裏には何があったと思いますか。平行線を保った理由は何だと思いませんか。何が何かして、魅力という言葉を使っていました。何が平行させたんでしょう。

田島高校、僕が当時1,000人いた時代に、物理も化学も病診理学も勉強しましたよ。それは魅力もありますよ、マンモス校は。だけれども、大きいからとか、3クラスだからどうだというのは、説得力は全くない。問題は、なぜこの南会津高校がこの平行線をたどり続けることができたのか、その裏には何かあると思いますか。お考えをお願いします。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 ここ数年の生徒の志願状況動向を分析をいたしますと、田島中学校から、東部地区からですね、志願者が多くなっているという状況がございます。

○室井嘉吉議長 10番、湯田哲君。

○10番 湯田 哲議員 私の地区も昔は田島高校、僕も田島高校OBです。50年近く田島高校ほとんどでしたね。もちろん会津若松市へ行かれる優秀な方もいらっしゃる。今僕の身の回りの孫たち世代は、南会津高校です。どこ出たのったら、南会津高校ですよ。僕の同世代はどこ出た、田島高校、田島高校、これはほとんど我々の普通の会話ですよ。ただ魅力があるということは常々耳に入ってきますよ、僕の世代にも。なぜかと言ったら、やはり今言ったこちらの地区からスクールバスも出ています。16人、この部分で行っていますよ。これは魅力ですよ。スポーツもスキー部もありますし、どちらかといえば、2校比較したくないですよ、僕なんかは。田島高校のOBとしては。魅力があるのはどちらかと言ったら南会津高校なんですよ。

先ほどから魅力、魅力、総合化にしたら、3クラスにしたらばと言っていますけれども、それは本当に田島高校に今の状況で、南会津高校はしっかりと魅力化をしているし、物理的アクセスもしっかり自治体、この町が。スクールバスで、よく自宅前から高校生が学校に行かれるなんて僕は羨ましくて、よく田んぼの中で見えていますよ。どこどこさんのお孫さんがこうやって待っているわけです。バスがすうっと来て、高校生が乗って南会津高校へ行くんですよ。うちの地区なんかもそういう風景が毎日。中学校だったらあり得るのだけれども、高校でそれやっています。これは自治体のこの町の努力で、南会津高校を残すための努力をしているんですよ。魅力化を図っています。それがこの10年間の推移だと思いますよ。これを我々自治体がやろうと思っていますよ。

平行線は平行線なんです。ちゃんと言ってくださいよ。5年後もちゃんと40何人、50人、場合によっては行きますよ、これは努力すれば。一番危機的なのは、僕の母校ですよ。田島高校ですよ。半分以下。あと5年後と言ったら、多分マイナスになるかもしれない。県が慌てているとすれば、田島高校の魅力化、我々のときには農業科、林科、家政科、8クラスありました。普通科が5クラスですよ。とてつもなく、1クラス40人ぎりぎりですよ。その中で3年間生活しましたがけれども、それはそれでもう巨大な状態で、魅力もあつたのかどうか僕は分からない。でも、その分で考えたら、この今日の会合の中で説得することなんてはもちろん到底難しいことだと思っただけけれども、この魅力を両方比べたこの資料3の推移を見るならば、残るのはどっちで、消えちゃうのはどちらかというのはどんな素人見たって分かるわけですよ。だから、ぜひ総合学科3クラスに関しては、田島高校について昔の農林科、林業の町ですからね、林科卒業の方いっぱいOBで今県の職員になったり、様々な部門で活躍している人たちが、

田島高校出た方が活躍していますよ。

そういう意味では、総合学科に関しては大賛成ですよ。ぜひ我々が努力してこの高校を10年間ずっと先生方も、部活のエネルギー踏襲して、あそこみんないい子に育っています。社会人になっている人いっぱいいますよ。考えたら、この分では、本当に魅力あるか、魅力化、魅力化と言っていますけれども、既に南会津高校は魅力ありますよ、あるからこの分を10年間維持しています。この5年後も多分この推移ですよ。それを危機的だとか言っていますね。苦渋の選択とか言っていますよね、それでしょうか、苦渋の選択。これについての考えはどうなんでしょう、どちらかが残って、どちらかが魅力があって、その考えを自分の言葉で言ったらどうでしょう、県の姿勢じゃなくてどうでしょう。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 私どもとしては、南会津高校、田島高校、どちらも先生方非常に頑張っている。それぞれの特色を出しているというふうには考えております。別な言い方をすれば、どちらの学校もそれぞれの魅力を持っているというふうには考えています。

ただし、その魅力が維持できるのかということを大変危惧している。つまり、今の学級規模を維持することがやはりできないというふうには考えておまして、別な切り口で申し上げると、両校それぞれ頑張って魅力があるんだけど、それでもやはり入学者は減ってきている。南会津高校のほうは平行だということありますが、以前から比べると確実に減っているんですね。どこのトレンドをとるかというところでございますけれども、その中で今の両方の魅力をこれからも継承していくためには、統合してできるだけ大きな規模の学校を造っていくことが大切であるというふうには考えております。

○室井嘉吉議長 10番、湯田哲君。

○10番 湯田 哲議員 仮に、県の予測どおり魅力化のために3クラスにしました。先ほどの交通の便のアクセスですよ。山口から行く、大桃からも、泉田地区からも、各家庭の人々が送る。そしてローカル線ですよ、スクールバスじゃないよね。1時間かけて田島高校に到達する人、その選択を誰がするんですか。僕がもし子供がいる親だったら、やりませんね、まして冬のこと知らない。寒い中送って雪の中、除雪した上がりを走る。40分、50分、1時間、2時間もかかって学校に着くなんてことは、この山の中で考えられない話。

全く本当に、先ほどありましたけれども、全然実情を把握していない。距離感はあるけれども、あの山って何だか分かりますか。標高500で、あそこ900、400メートル上がって下りるんですよ。こんなエコじゃないことを町は、本当にやるなら我々は、では、大桃からでも、

和泉田からでも、スクールバス、町が出しますよ。我々県の予算で2,000万円、多分2,500万円ぐらいかかるんでしょうけれども、それやりますよというぐらい宣言しなきゃ駄目じゃないですか。そこまで親が送るから、この高校交通はちゃんと機能しているなんて、子供たちの3年間の生活をそんなことで繰り返させるんですか。2時間もその中でしっかりしたお勉強できないんじゃないですか。ならば、うちの玄関から田島高校へ送るぐらいのアクセスしなきゃ駄目じゃないですか。

今、田島でやって、南会津高校を守るという魅力化しているのは、その魅力があるからですよ、ハード面です。ぜひ田島に3クラスの学校造ることは結構ですよ。では、自宅前からバス出しましょうよというぐらいの意気込みなかったら、我々納得しませんよ。送るのは親でしょう、勝手なことを言わないでくださいよ。そんな選択誰がしますか、危険起きて、事故だって起きますよ、雪道。これ必ずつきものです、雪国にとっては。それに対して親が送るから、山口から送りますから問題ありませんなんていうのは、勝手な、何の想像力もない、傷みの分からない答えだと思いますけれども、それについてどう思いますか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 先ほど来通学のことにつきましてはいろいろとご質問、それからご意見、ご提案いただいているところであります。

再度といたしますか、繰り返しの答弁になって恐縮ですが、そこが最大の課題だというふうに我々も認識しております。そこをお示しできていないのが、こういう状況を招いているというのは、十分我々としても重く受け止めていますので、先ほど来繰り返しで本当に申し訳ないんですが、そこについてしっかりとした答えを持って懇談会に臨みたいというふうに考えております。

〔「議長、最後です」と言う者あり〕

○室井嘉吉議長 10番、湯田哲君。

○10番 湯田 哲議員 他の例とか、ほかの示しが見つからないとかいろいろあるかもしれない。条件もやって、苦渋の選択で今回の結論で我々を説得しようとしてここにやってきているはずですよ。だけれども、本当に子供たちの教育を考えたら、その1時間、公共交通に揺られて、途中中東地区でとまって、針生でまた一周奥まで行って戻ってくる。定期なんて考えたら、本当にこの田舎道、揺られ、揺られていくことを考えたら、なんて長いだろう。電車なら違いますよ。あの峠、親は送りますかね。そんなバスに乗せて学校に通わせる親、こんな酷なことないと思います。

何度も言います。ハード面の魅力、3クラスになった魅力が、そのハード面の雪深いその分の交通を超えることはない。よほどとてつもなく情報稼働が、最新のテクノロジーの何でしょう、そういう専門家、さっきのハード、ふたば未来の話しました、引用しましたよね。では、あのイコールのようなものを造らなきゃ我々納得しませんよ、それぐらい。先ほど会津若松市から生徒を呼ぶなんていう話しました。できた段階で生徒、会津盆地からどのぐらい来るんだか、推測してそれを答えてほしいけれども、それは実際やってみなきゃわからないので、でもぜひその辺の、そっちのほうがすごく甘い考えだし、そんな3クラスにしたからとか、先生をいっぱい集めたからとか、今現状で横ばいのこの線、これが物語っていると思いますね。

これほど10年間維持できた努力と先生方の努力と、ぜひ述べますが、田島高校の総合の3クラスとか、そういう魅力化はぜひやってほしいです。昔の1,000人クラスの学校にしようなんていうのは、今少子化の中で無理ですけども、これは本当田島高校、南会津高校の存続、両方、どちらかといったら、南会津高校のほうが可能性はある。残念ですけども、大体残りますよ、客観的に見て。ぜひ田島高校がなくならないように、その魅力化の総合化、ぜひ持ち帰って、ここは特例だということで僕はやってもおかしくないと思う。ほかの示しが見つからないとかの問題じゃない。この山も南郷村という、あの山があるんだからと言え言える。しっかりその辺は伝えてほしいと思います。

質問を終わります。

○室井嘉吉議長 ほかに。

14番、星光久君。

○14番 星光久議員 1つ方針出されて、高校の統合問題出たけれども、ここにも県立病院あるんだな。それで平成4年に県から廃止だと言って、存続駄目だよという案が出された。それで、ここも医療圏の中の1つで、医療圏の中の1つだから駄目だといって、平成7年に県立田島病院、新しく移転して存続したんです。

そういう経過もあって、今何でせつかくあるのにつぶすのかと思って、教育委員会の方針だろうけれども、そういう中で、先生方はうそをつかないよ。ちゃんと質問に答える。重要な中身だったけれども、何回か公聴会やってないけれどもさ、前の段階の質問とか、そういうのには、全然答えてないと。こういうことでこうなったけれども、これはこうなっているんだと、いろいろ段階を踏んだ順序あると思うんだ。そこで、全然そういうことが答えていない。先ほど山内議員が言ったように、無視だ、無視、全然無視。方針だけを述べるだけであって、全然無視。

そういう形で、それ今までの過程のまま繰り返すわけにいかないべから、そういう形でこの地区、これから全国林業の一番町にしっぺと思っているんだ。分かりますか。

というのは、中身を言ったってそんなに分からないと思うんだけど、荒海チップという50年も60年やっているチップ工場があって、その中で何ちゅうだ、原木やっから皮、皮ってわかっぺ。樹皮ね。それを基礎にして農業づくりを今これからやっぺと思っているの。それと問題は林業づくり、この町で九十何%の林業だ。今まで福島県を発展させたのは、林業科があったからこそ発展したんだよ。教育ばかりあったら発展しない。そういう形で、先ほど湯田哲議員も言ったように、林業事務所、林業科、農業科あったから、福島県の林業含めて発展したの。

それで今度のオリンピック、東京オリンピックの野菜、日本の野菜食いませんと言われてたらどういう形で分かりますか、食わないの。ヨーロッパなんかはほとんど農薬を使わない、肥料も、化学肥料も使わない。そういう野菜食わないと体ができませんよという形で、日本の野菜は食いませんと言われて、泡食って農協も転換期、化学肥料作ったり、農薬で滅菌消毒したりした野菜からやはり転換しなきゃ駄目だよと言って、気がついて初めて東京オリンピックの野菜、ヨーロッパのほうから持ってこなくてもいいよって3年がかりで準備したんだ。

そういう形で、この町、林業の樹皮を堆肥にして、そしてそれをくん炭化させて、そして今、先ほど言った南郷トマトだのいろいろなもの、だんだん今化学肥料使い過ぎて、格好はいいんだけど、中身がだんだんよくなってきたの。そういう形で今、ここさ、そういう形で小規模ながらちっちゃい、今だんだんくん炭の機械入れたり、あと住友林業って今全国でも有数のハウスメーカー、これ東北で初めてここへ乗り込んできたんだ。やはり林業の町は林業で生かすしかない。それにはそういう教育が、個々の教育が基本なんだな。

そういう形で、田島高校と南会津高校あっても、十分生徒の教育には間に合わないぐらい人数が必要なんだ。そういう形で、将来的に全国で、いや木材の町、農業の町といえば、やはり南会津町ですよと言われるぐらいのそういう何ちゅうんだ、これからの予想図、あとバイオマス、バイオマス発電所をこれから今、西部へ乗り込んでくるわけ。そういう形で、農業科、農林科でも、農業科でも、林業科でも何でもいいけれども、そういう人づくりをする気は教育委員会はないですか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 統合校においても、農業関係の系列を設ける計画としておりますので、しっかりと農業人材の育成を図っていきたいと思います。

○室井嘉吉議長 14番、星光久君。

○14番 星光久議員 いろいろ言ったって聞いているか聞いてないか分からないだろうけれども、そういう形で、俺らは本気になってこのまちづくりをやるわけ。そういう形だから、教育の一環として、そこらも含めて南会津高校に林業科をつくって、あとぎっちり林業の生徒を育てようと、研究家を育てる。田島高校、農業科をつくって、きっちり生徒の農業、農業や林業というのは、人間にとって基礎だからな、これ基礎。食3日何ぼうまいものを食ったって、野菜食わないと死んでしまうだから。

そういう形で、そういう計画をしてください。俺らはうまいこと言えないけれども、必ず残るから、必ずそういう形で生徒残ります。全国から来るから。

○室井嘉吉議長 何か答弁ありませんか。

県教育委員会。

○白石孝之県立高校改革監 ありがとうございます。

そういった状況も踏まえながら、統合校での農業の学びというものも具現化していきたいというふうに考えております。

○室井嘉吉議長 いいですか。

○14番 星光久議員 はい。

○室井嘉吉議長 ほかにありませんか。

2番、馬場浩君。

○2番 馬場 浩議員 今、星議員が言われたとおり、町はいろいろ振興策を考えております。そして人口を増やそうと思っております。これは本気でやります。そうした場合に、高等教育の場が必要なんです。分かりますか。あなた方は人口が少ないから統合すると言っていました。我々は違うんです。これからこの町の人口を増やそうと考えています。そのために、高等教育の場が必要なんです。

なぜ県はそういう人口を増やそう、例えば高校は人が少ない、だったら全国から生徒を呼ぼうという考えにならないのか。南会津高校という宝を、何でここで駄目にしてしまうのか。これだけ環境がいいところは全国にありませんよ。そうすれば、これから環境問題が深刻化したときに、環境アドバイザーという人材も育てることができるんです。

ぜひそういうことで、人が少ないから、少子化だからという理由であなた方の、申し訳ありませんが、これは県の職務怠慢ですよ。何で県は、県の仕事は何でしょう、県土を豊かにすることじゃないですか、地域を豊かにすることじゃないですか、そのために人口を増やすため

にどうしたらいいかという、それをなぜしないのか。

教育現場でもそうです。生徒を全国から呼ぼうじゃないか、それぐらいのことを国に進言してもらいたい。それをやって駄目だったら、統合しようがないですよ。そういうこともしないで統合ありきというのは、いささかあなた方の怠慢じゃないかなと私は思うんですけれども、どうでしょうか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 ご指摘ありがとうございます。

私ども人口が少ないから学級を減らすということではございません。統合だということではございませんでして、教育の充実を図るためには、統合するのが一番の選択肢であるということで提案をしているところでございます。

また、一方で、全国から人が、生徒を呼ぶべきではなんではないか。実は現状、南会津高校と只見高校、川口高校の3つの学校につきましては、現在でも全国から生徒を呼べる仕組みだけは整っておりまして、只見と川口につきましては、山村留学という形で、町で寮を設けるなどして生徒を増やすような努力もされているというところでございます。

○室井嘉吉議長 2番、馬場浩君。

○2番 馬場 浩議員 今のお話を聞いていますと、南会津町はその努力をしてないから駄目だということなんですか。どうもそういうふうな印象をつけられるんですけれども、どうでしょうか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 南会津高校、3つの学校を含めて現状でも全国から人を呼べるような、そういう仕組み、入試の仕組みは整えているということを申し上げたかったということです。

○室井嘉吉議長 2番、馬場浩君。

○2番 馬場 浩議員 この3校が全国から人を、生徒を呼ぶ仕組みができているんだったらば、なぜこれをもっと充実化しないんでしょうか。そこがどうも疑問に思うんですよね。魅力化、魅力化、教育の充実化と言いながら、そういう仕組みを生かし切れない。これはあなたたちの責任じゃないんですか。どうですか。

○室井嘉吉議長 県教育委員会。

○小林寿宣県立高校改革室長 先ほども他校の例を出させていただきましたが、魅力化を図るということで、それをもって生徒は集まってきてくれる。それは県内の、地域内の生徒であっ

でも、県内の他地域の生徒であっても、全国の生徒であっても同じことであろうというふうに思います。

統合校においては、3学級規模の学校として、しかも、先生方を普通科よりもより多く配置をして、地域を学習、フィールドした活動なんかもどんどんやっていって、地域への理解、地域への愛情、あるいは地域に貢献したいというような、そういう思いを持った生徒を育てていきたいというふうに思っております。魅力があつての生徒が志願してくれるという状況がありますので、魅力化を図りたいということを何度も申し上げて大変恐縮なんですけれども、魅力化を図ることこそが生徒を呼び込む、学校の教育活動を充実させる手立てであるというふうに考えております。

○室井嘉吉議長 2番、馬場浩君。

○2番 馬場 浩議員 もうこれ以上言ってもあれなんですけれども、魅力化、魅力化と言っていますが、魅力があるから今、南会津高校に田島からも人が来ているんですよ。これはそうですね、事実。そうですね、それは認識していますよね。

だったらば、いろいろ、皆さんも文部科学省だ、国の施策もあると思います。だけれども、それに従ってやっていたら地域がなくなってしまうんです。これが一番おっかないことなんです。今、あなたたちのやっているのは、少子化の、実は少子化を増進しているんですよ、加速させているやり方なんです。分かりますか。

高校に通うのに、学校に行くのに、1人当たりの経費がかかります。今までよりもずっとかかってきます。そうすれば、3人の子供が1人になってしまうんです。その上、この予期せぬコロナだ、何だかんだあります、環境問題で。皆さんの所得が減ってきています。そうした場合に、教育の場合が遠のくということは、それだけ子供を育てる環境がしづらくなるということです。ぜひそれを持ち帰って検討していただきたい。できれば、もう一度南会津高校と田島高校の統合、廃校を考え直していただきたいと思います。

以上です。

○室井嘉吉議長 今の御意見ということでもいいですか。

○2番 馬場 浩議員 はい。

○室井嘉吉議長 ほかにございませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○室井嘉吉議長 ないようでございますので、これで質問、意見を終わりたいと思います。

県の教育委員会におかれましては、今ほど来多くの議員の方々から出されましたご意見等に

ついて、十分お持ち帰りをいただいでご検討を願いたいと。

さらには、本町議会が高校存続の意見書の採択をしております。既に教育長宛にも意見書を提出をしております。3月15日ですね、平成31年3月15日で意見書の提出をしておりますから、その意見書の趣旨を十分踏まえた対応を切に議長の立場からも求めておきたいと。

取りも直さず、何よりも子供たちの不安、ここをやはり払拭させるということも同時にご検討をいただきたいなど、こう思います。

さらには、先ほど来の質問に対する答えを聞いていて、私自身も実は危惧する部分がありました。それは統合後、山口会津バスの山口営業所前、7時半に出発して田島駅までバス通勤ができるかのような、こうしたことの発言は、当地方に来て二度と言ってはいけないことだというふうに私は思います。

〔「そうだ」と言う者あり〕

○室井嘉吉議長 2月、3月ですね、1週間で結構でございますから、冬期間1週間、大桃部落からバス通学でぜひ田島高校まで通勤してみてください。通学してみてください。できるはずありません。ぜひそういうできないことをあたかもできるように言うということは、単に住民感情をこじらさせる原因になるというふうに危惧しますので、今後そういった発言はしないように、ぜひよろしくお願いをしたいというふうに思います。



◎閉会の宣告

○室井嘉吉議長 以上、申し上げて、本協議会終わりたいというふうに思います。

本日は、県教育委員会の皆様には遠路遠いところ大変ご苦勞さまでございました。

また、各議員の皆様にも長時間にわたり大変ご苦勞さまでございました。

以上をもちまして、全員協議会を閉じたいと思います。

ご苦勞さまでございました。

閉会 午後 4時18分

以上、南会津町議会全員協議会等の運営に関する規程第11条の規定により、本会議録は
事実と相違ないので署名する。

令和 年 月 日

議 長 室 井 嘉 吉